

令和2年11月20日 現在

上京区基本計画 2025 (案)

はじめに

上京区では、区の個性を生かした魅力あるまちづくりの指針として、これまで、第1期（平成13（2001）年～平成22（2010）年）及び第2期（平成23（2011）年度～令和2（2020）年度）にわたり上京区基本計画を策定し、取組を推進してきました。

第3期となるこの新たな基本計画は、京都市基本構想（平成13（2001）年～令和7（2025）年）の実現に向けた総仕上げとして、全市的な計画である「はばたけ未来へ！京プラン2025」（京都市基本計画）と相互に補完し、上京区の独自性、地域の視点から編み上げた計画（令和3（2021）年度～令和7（2025）年）であり、「上京区民会議」を核として、小中学生から大人まで幅広い世代、PTAや地域の中小企業家など、多様な立場の方々から御意見等をいただきながらまとめたものです。

今後5年間の上京区をよりよいまちとし、さらに輝かしい未来を創造していくため、皆様からの忌憚のない御意見や御提案をお待ちしております。

なお、お寄せいただきました御意見等は、今後の検討に反映してまいります。

目次

序章 上京区基本計画策定に当たって

- 1 計画の役割
- 2 計画の位置付け
- 3 策定方針
- 4 検討体制

P 3～

第1章 これまでの区基本計画の総括

- 1 第1期及び第2期区基本計画の総括
- 2 データで見る20年間の変化

P 6～

第2章 計画の背景・現状と課題

- 1 計画の背景
(1) 定住人口 (2) 交流人口 (3) 関係人口
- 2 4つの切り口からの現状と課題
(1) ライフスタイル (2) 安心安全
(3) まちの活力 (4) はぐくみ・継承

P 8～

第3章 まちづくりの基本理念と4つの将来像

- 1 基本理念 「上京新時代～文化と絆で未来を創る！」
- 2 4つの将来像

P 15～

第4章 将来像別取組の方針体系

- 1 4つの将来像を実現するための各方針
- 2 将来像ごとの政策体系

P 17～

第5章 学区単位を取組

- 1 学区単位のまちづくり
- 2 学区単位の重点目標

P 36～

第6章 計画の実現に向けて

- 1 「自分ごと，みんなごと」で取り組むまちづくり
- 2 運営方針による取組の推進
- 3 学区ごとのまちづくりビジョンの策定
- 4 進捗管理の実施

P 38～

参考

- ・上京区基本計画の策定経過
- ・上京区民会議 委員名簿
- ・上京区まちづくり円卓会議 委員名簿

P 39～

序章 上京区基本計画の策定に当たって

1 計画の役割

(1) 区民と行政との協働による取組の充実を図るための新たなまちづくり指針

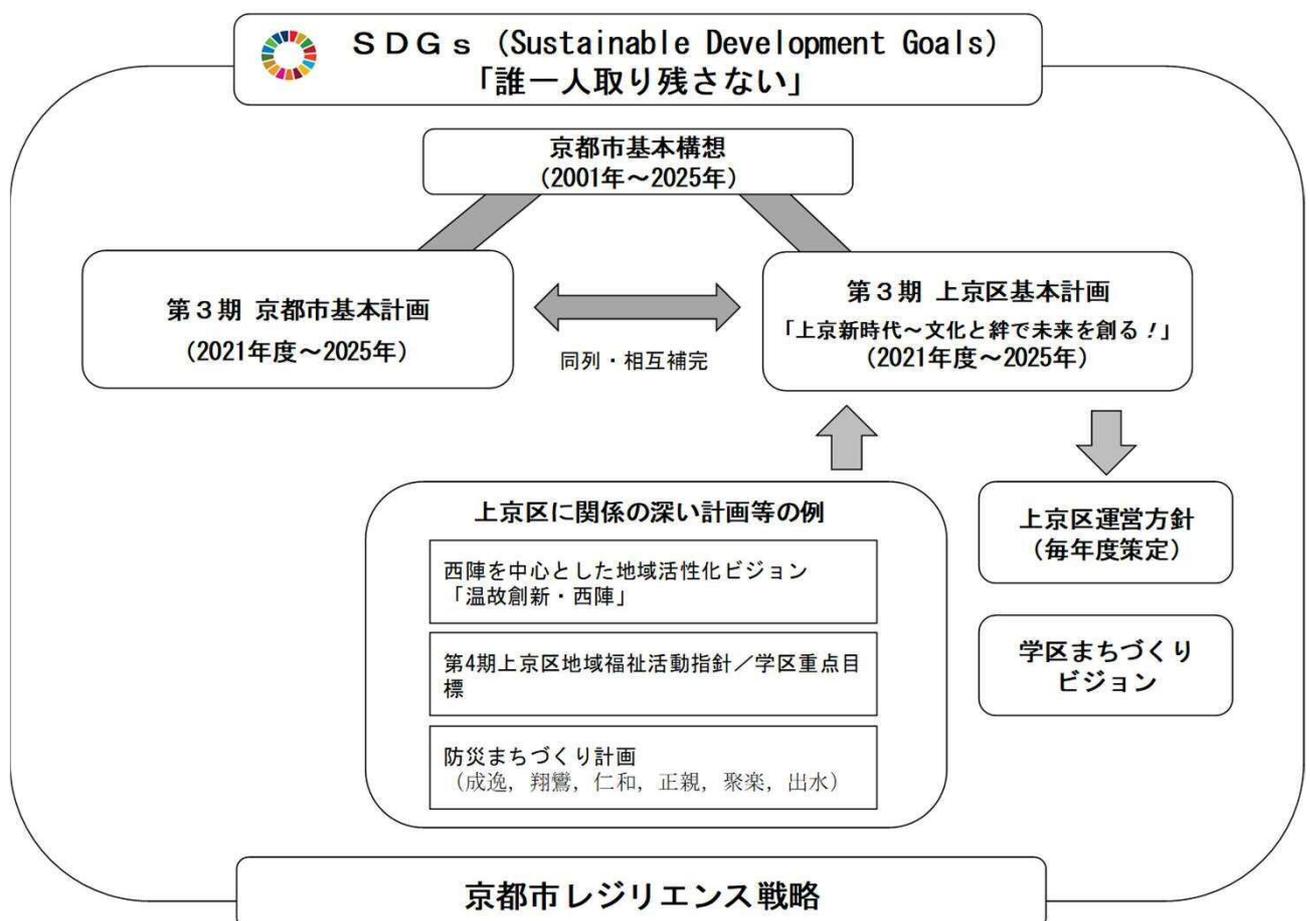
区の将来の姿や目指すべき方向性を区民と行政が共有するための中期のビジョンを示します。

(2) 区民と行政との役割分担を明確にし、目標実現のための道筋や方策を示す指針

具体的な取組内容についてそれぞれが、「自分ごと、みんなごと」として主体的に取り組めるように、役割分担や取組の方向性等を明らかにします。

2 計画の位置付け

- (1) 区基本計画は、平成13（2001）年から令和7（2025）年までの京都のグランドビジョンである京都市基本構想を具体化するため、全市的観点から取り組む主要な政策を示す京都市基本計画と同列の計画として位置付け、相互に補完し合う計画であるとともに、区の個性等に応じた創意ある方策を示すものです。
- (2) 計画期間は、令和3（2021）年度から令和7（2025）年までの5年間とします。
- (3) 「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」や「第4期上京区地域福祉活動指針」など、上京区に関係の深い計画等を踏まえた、整合性、実効性のある計画とします。
- (4) 区基本計画に基づき、毎年度の上京区運営方針を策定し、具体的な事業を展開するとともに、本計画期間内に学区ごとのまちづくりビジョンを順次策定します。



3 策定方針

(1) 新たな課題に挑戦

第1期及び第2期区基本計画の成果をもとに、「誰一人取り残さない」ことを理念とするSDGsの国連での採択※1や、新型コロナウイルスによるパンデミック（世界的大流行）で、より重要性が確認されたレジリエンス※2、経済発展と社会的課題を両立するSociety5.0※3といった時代の大きな潮流を踏まえながら、少子化等による人口減少をはじめとした、上京区のまちづくりを取り巻く課題に、上京区民が真正面から挑戦できる計画を目指します。

(2) 「自分ごと、みんなごと」で推進

区基本計画を、区民が「自分ごと、みんなごと」として捉え、実践していただけるように、策定の出来る限り早い段階から、上京区民会議をはじめ、多様な世代・立場の区民が広く参加する「上京区まちづくり円卓会議拡大会議（上京！MOW）」など、様々なチャンネルを通じて可能な限り幅広く、また、ICT等の活用も図りながら、御意見等を汲み上げます。

(3) 財政基盤の確保

京都市が極めて厳しい財政状況にある中で、着実に区基本計画を推進するため、真に必要な施策・事業の選択と集中・融合、効率化を図るとともに、地域に貢献し調和のとれた産業・観光、商店街の振興やふるさと納税等の収入確保など、財政基盤の充実・確保に努めます。

(※1) SDGs（持続可能な開発目標）

平成27（2015）年の国連サミットで採択された、令和12（2030）年までを期間とする国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットを定めたもの。

(※2) レジリエンス

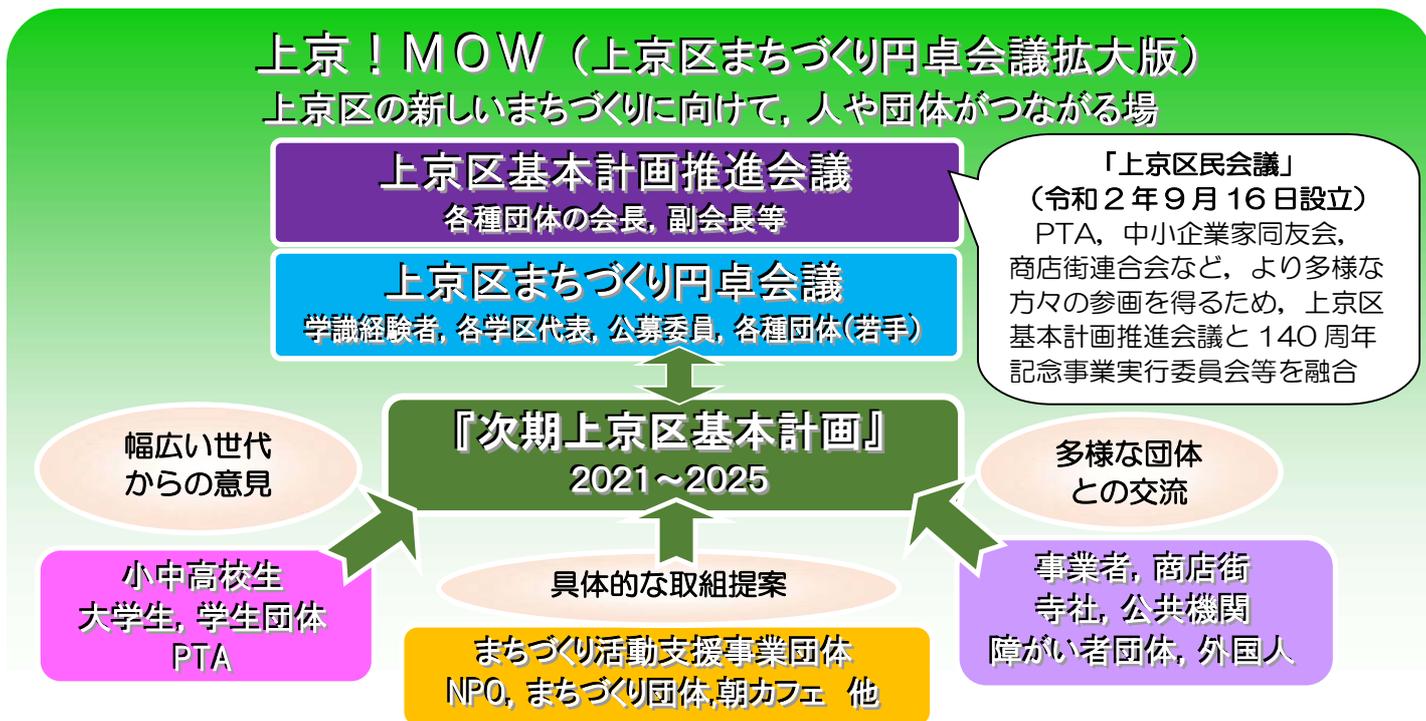
様々な危機からの回復力、復元力、強靱性（しなやかな強さ）を指す。

(※3) Society5.0

仮想空間と現実空間を高度に融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会

4 検討体制

区基本計画策定に係る検討に当たっては、令和元年7月の検討開始以降、約1年5箇月にわたり、上京区民会議、上京区まちづくり円卓会議をはじめ、小中学生から大人まで幅広い世代、PTAや地域の中小企業家など多様な団体からも御意見をいただき、検討を進めてきました。



(※) 上京区まちづくり円卓会議

様々なチャンネルから寄せられた御意見等を踏まえながら、計画案を策定する検討組織。

新川達郎議長のもとに、4つの部会を設け、各々新進気鋭の若手研究者に部会長として就任いただき、34名のメンバーで検討を行いました。

上京区まちづくり円卓会議 学識経験者（4つの部会を設置）

議長



新川 達郎 教授
同志社大学大学院
総合政策科学研究科

ライフスタイル部会



小谷 真理 准教授
同志社大学
政策学部

安心安全部会



大窪 健之 教授
立命館大学
理工学部

まちの活力部会



吉田 満梨 准教授
立命館大学
経営学部

はぐくみ・継承部会



中井 歩 教授
京都産業大学
法学部

第1章 これまでの区基本計画の総括

1 第1期及び第2期区基本計画の総括

第1期区基本計画では、「暮らしが息づき、伝統と文化の香るまち」を基本テーマとして、区の個性を生かした魅力あるまちづくりを進めていくという観点から、「文化」、「西陣」、「ふれあい」をキーワードとする3つの構想の実現に向けて、行政で取り組むものを中心に13施策52事業を掲げ、全事業について取り組みました。

第2期区基本計画では、区民の方々と行政が一体となって取り組んでいけるよう、策定プロセスも重視し、「絆で織りなす 住みよいまち上京」という将来像に向け、「先人の知恵」、「地域の絆」、「新しい力」を生かすまちづくりを目指し、「自治と地域力」、「まちの安心・安全」、「福祉と健康」、「地域振興」、「環境」の5つのテーマと55の取組を掲げ、区民ぐるみで推進してきました。

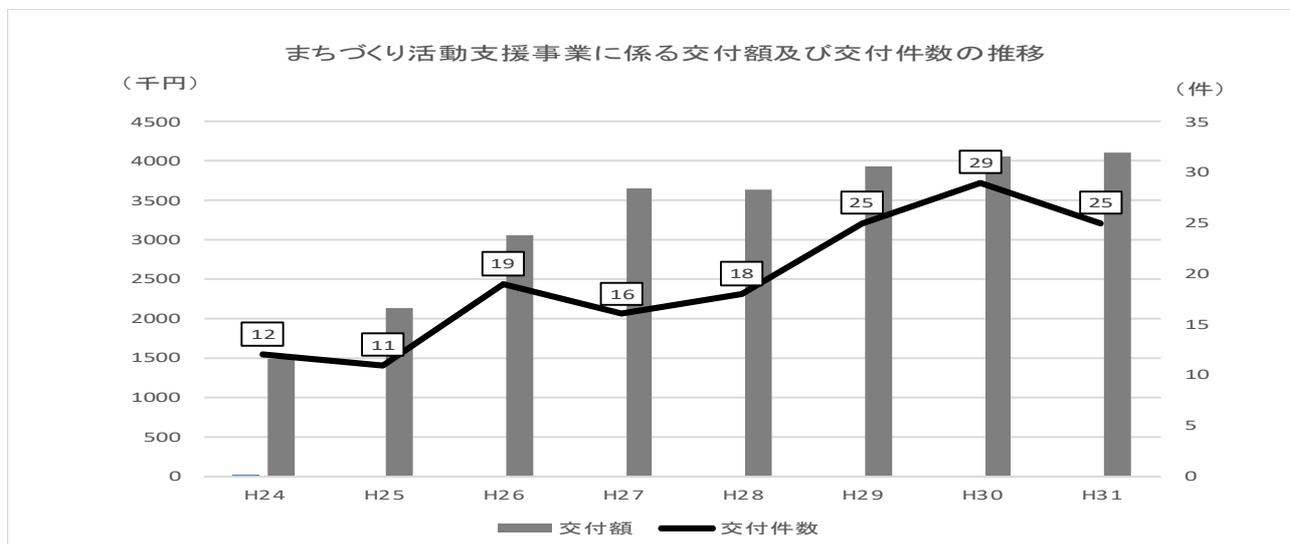
その結果、区民の自主的なまちづくり活動の着実な増加、保育所入所児童数をはじめとする子育て環境の充実及び刑法犯認知件数の減少など、地域における豊かな暮らしの実現につながる多くの成果が得られました。

しかしながら、少子化等による人口減少社会の到来や、高齢化の進行、ライフスタイルや消費・産業構造の変化、更には、大規模な災害など、地域を取り巻く環境は大きく変化していることから、本計画では、厳しい財政状況下にあっても、将来にわたって持続可能なまちづくりに資する取組を進めることが求められます。

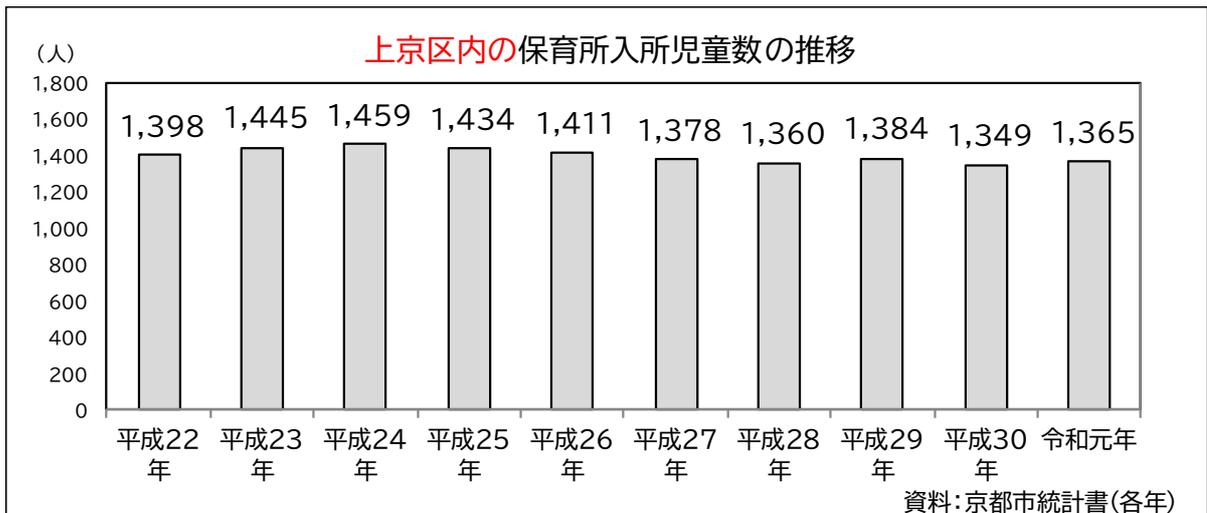
折しも、新型コロナウイルス禍での策定となり、働き方や生き方といった価値観にも変化がみられており、地域でのつながりや、支え合いの重要性が改めて認識されるなど、こうした点も十分反映させることで、上京区の新しい未来が一層素晴らしいものになるよう、取組を推進する必要があります。

2 データで見る20年間の変化

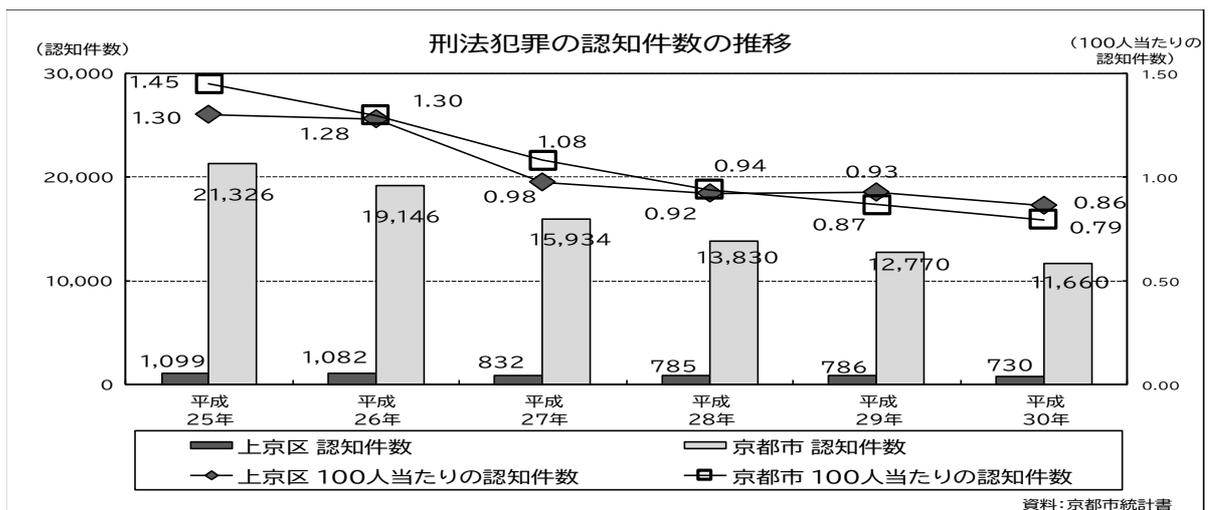
(1) 区民主体のまちづくり活動の増加



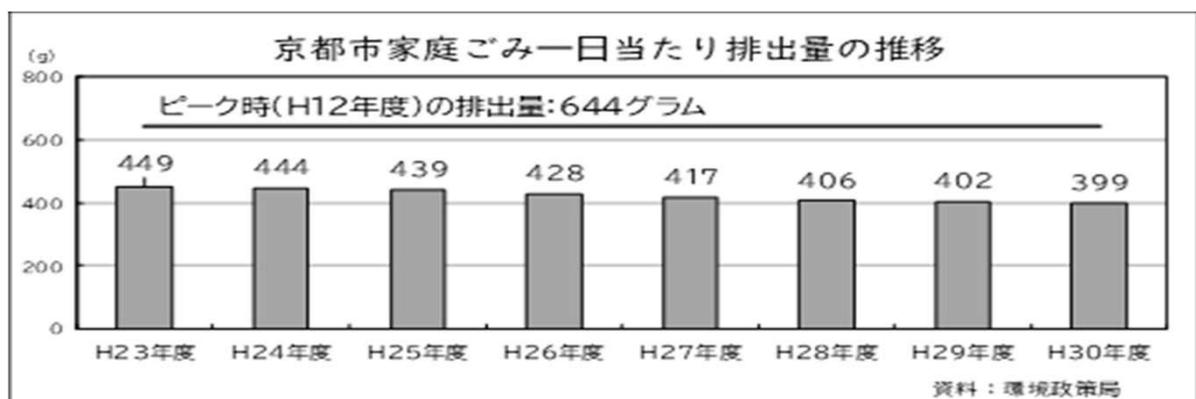
(2) 子育て環境の充実



(3) 安心安全のまち上京の推進



(4) 環境を守る取組の推進



第2章 計画の背景・現状と課題

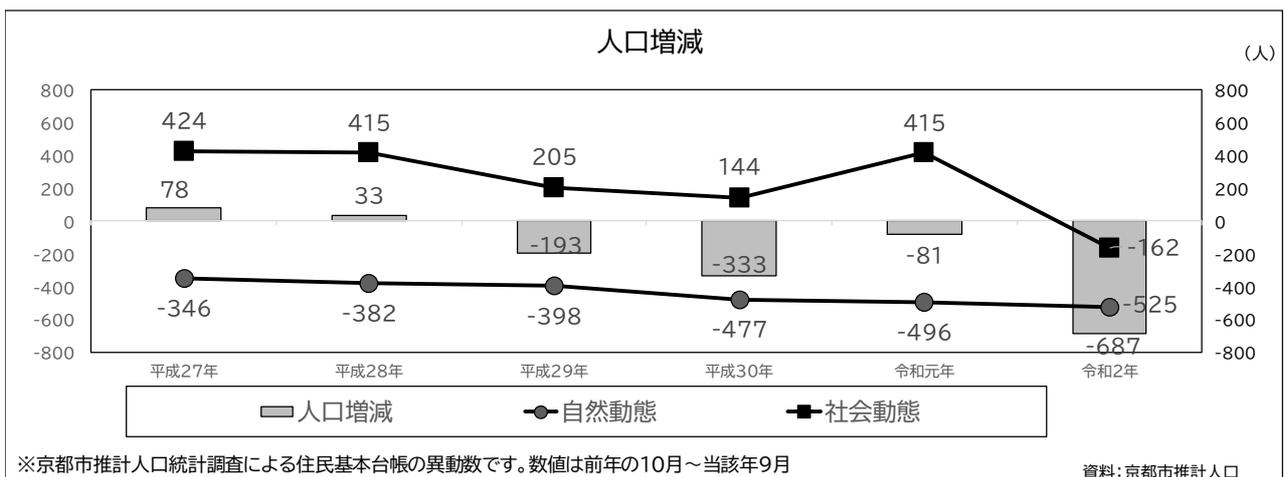
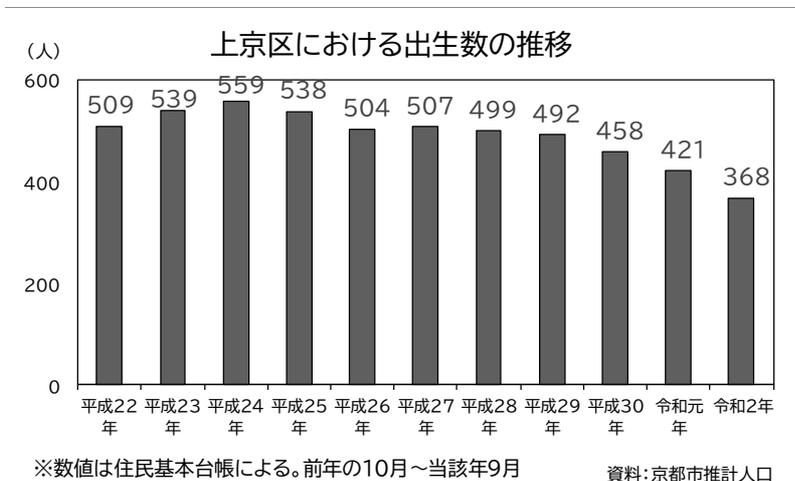
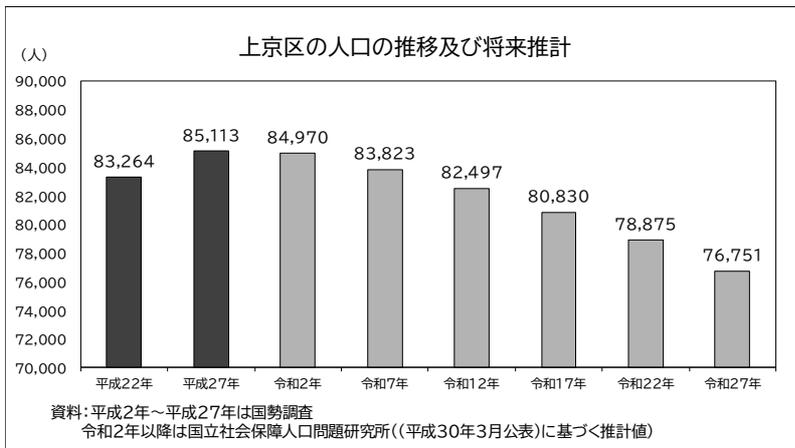
1 計画の背景

今後5年間にわたり上京区のまちづくりを進めていくうえでの基本となる第3期上京区基本計画を策定するに当たり、まちづくりの基礎となる人口について、3つの視点から分析しました。

(1) 定住人口

上京区の人口は、平成22年の第2期計画策定時83,264人から、令和2年推計値で84,970人となっており、共同住宅の増加等を背景に、人口減少に一定の歯止めがかかっています。

しかしながら、全国的に少子化が進行する中で、上京区の人口を今後も維持・増加させるのは、大変難しい状況にあります。



(2) 交流人口

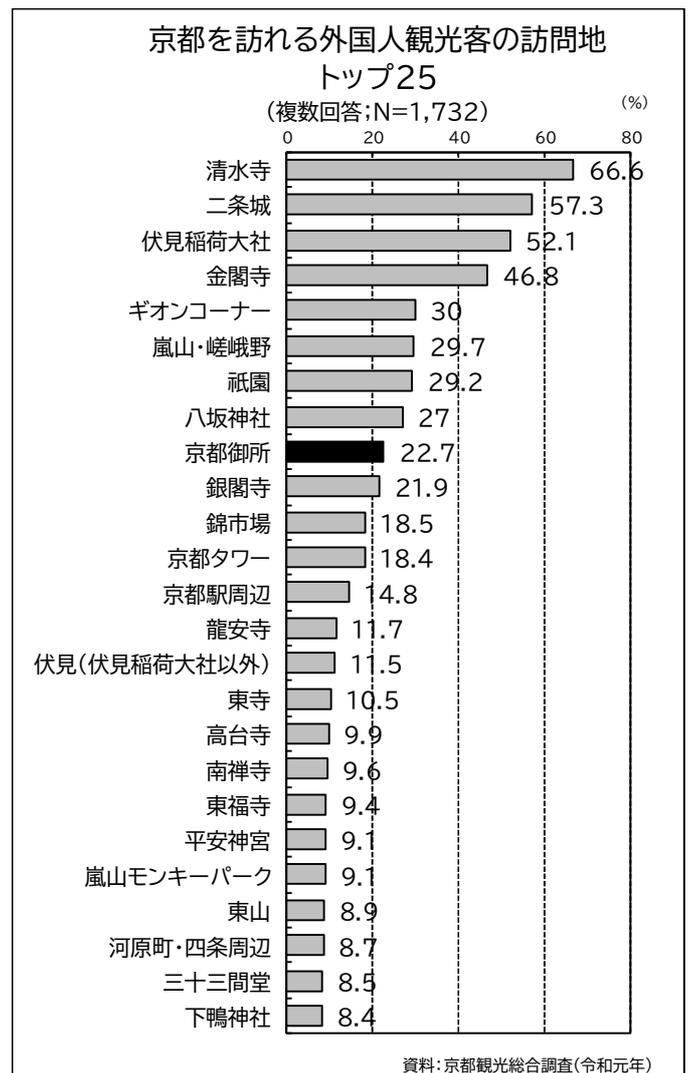
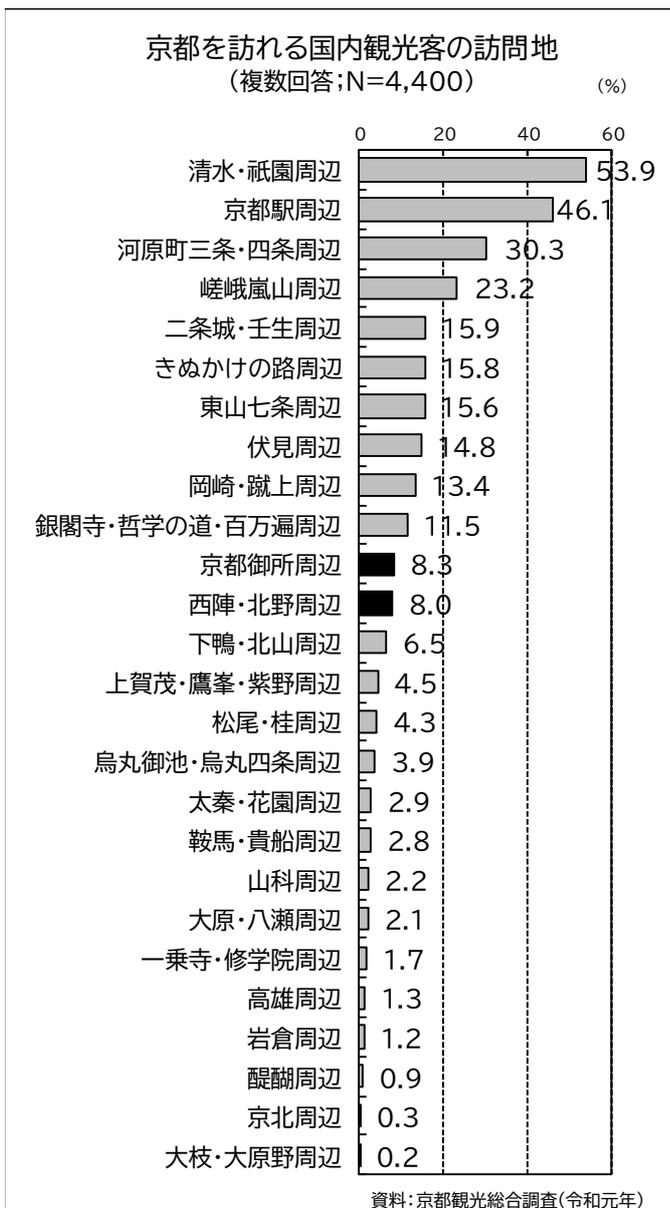
上京区外からの観光客や通勤・通学者等の交流人口の増加は、地域の活性化にとって重要です。

しかしながら、区内には、京都市内でも屈指の観光資源がありながら、他区に比べて観光客が少なく、また、同志社大学をはじめとする大学生世代は多いものの、西陣の低迷等により、通勤者も減少している状況にあります。

このため、観光客の来訪によるいわゆる観光公害を発生させないよう注意を払いながら、市民生活との調和を最大限重視しつつ、市民の豊かさにつながる観光の実施や、産業の振興を図り、交流人口を増加させることが求められます。

(京都を訪れる国内観光客の訪問地)

(京都を訪れる外国人観光客の訪問地)



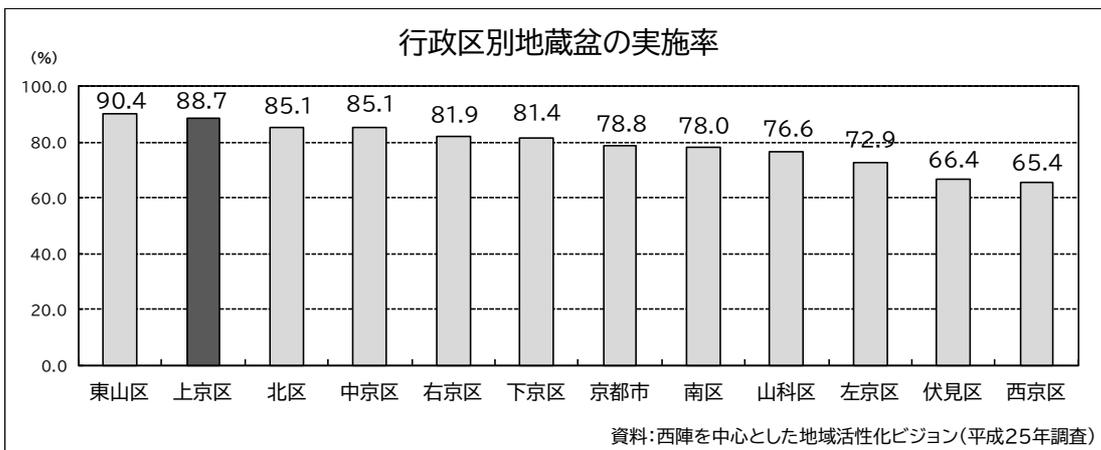
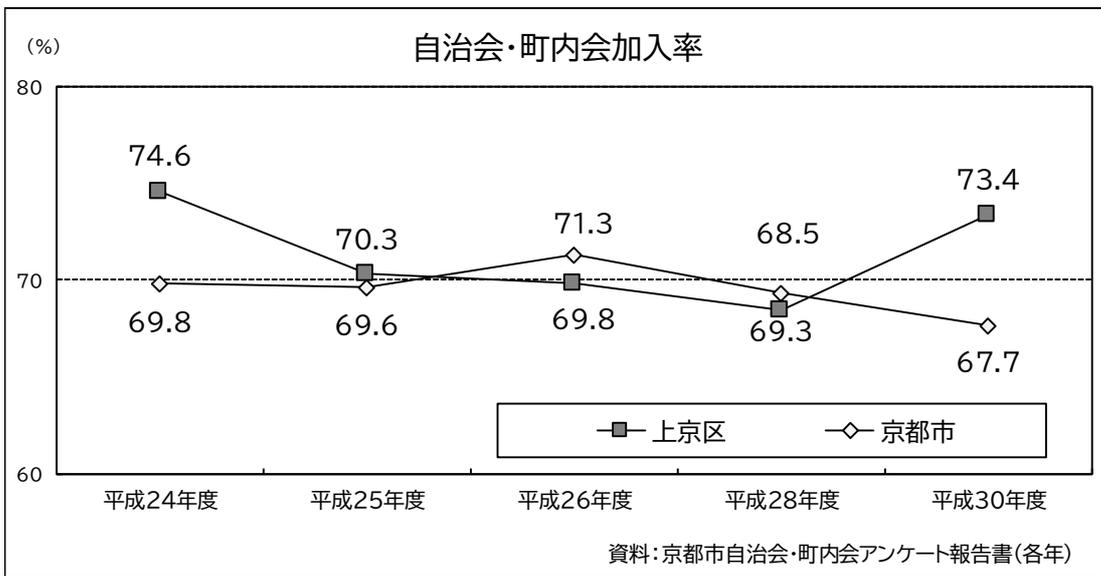
(3) 関係人口

上京区の誇る地域力の源泉は、多くの区民が地域活動の担い手となり、また、地域行事に参加し、そうしたつながりの中で、互いに助け合い、支え合うといった、いわば関係人口が多いことにあります。

しかしながら、近年、全国的な傾向として、近隣関係が希薄化し、地域の担い手不足が大きな課題となってきています。

こうした中、コロナ禍にあつて、以前よりも近所での声掛けが増えているといった状況も見られるなど、地域とのつながりの大切さを再認識する兆しも見られます。

今後、定住人口が減少しても、関係人口を増加させることによって、地域力を維持・向上させることが可能であると言えます。



2 4つの切り口からの現状と課題

計画を策定するに当たって、以下のように4つの切り口から、現状と課題を明らかにしました。

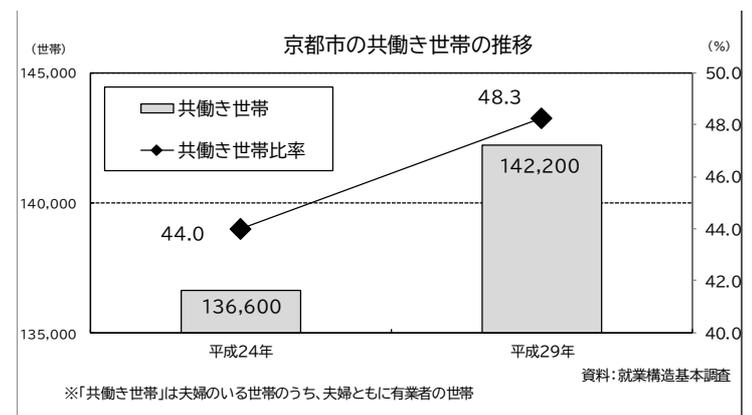
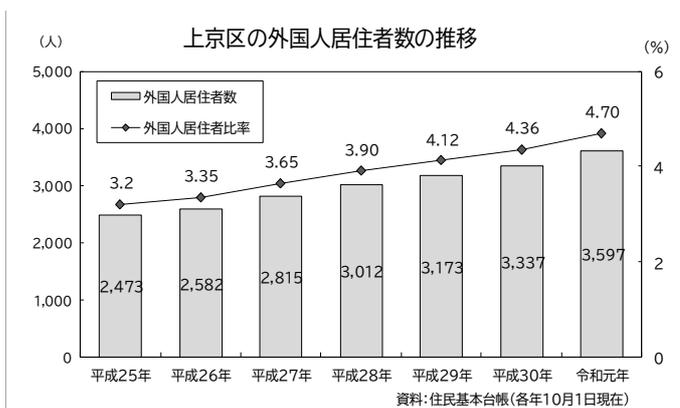
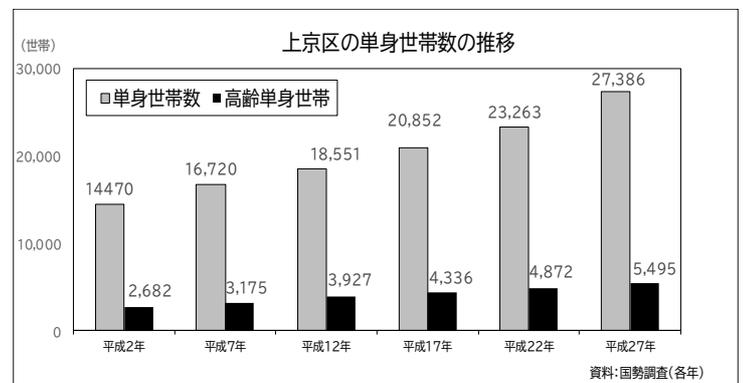
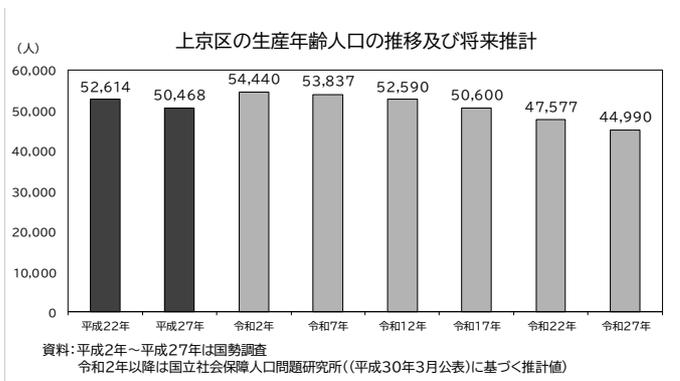
(1) ライフスタイル

上京区では、学区や町内会単位で、地域の自治、福祉、防災といった様々な取組が実施されています。歴史や伝統文化が日常生活に溶け込み、そうした場を共有する地域コミュニティは、価値観や世代を超えた交流を育み、日常生活の基盤となる重要な役割を果たしています。

しかしながら、近年、地域コミュニティを取り巻く環境は、少子化等による人口減少や単身世帯の増加など目に見える課題に加え、生活スタイルや価値観の多様化といった観点からも大きな変化が顕著になってきています。

また、外国人居住者数もこの7年間に約1.5倍と急激に増加しています。

こうした変化の中で、これまで営まれてきた地域での支え合いや、歴史や伝統文化、自然との関わり方といった地域における普遍的な価値を将来にわたって失うことがないように、大切に守る取組が求められています。



上京区まちづくり円卓会議「ライフスタイル部会」で議論された際に出されたキーワード

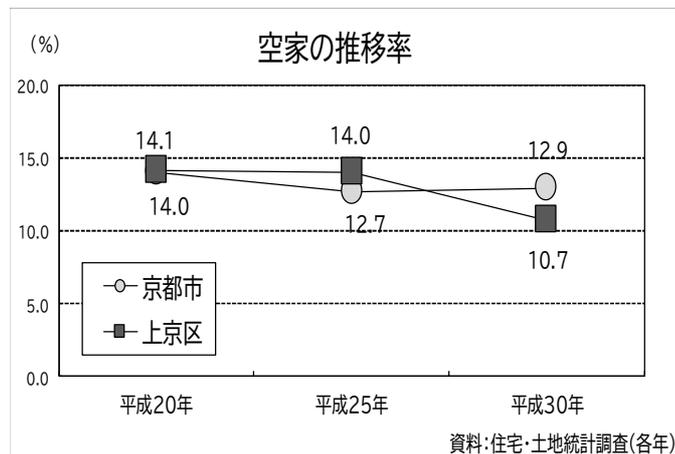
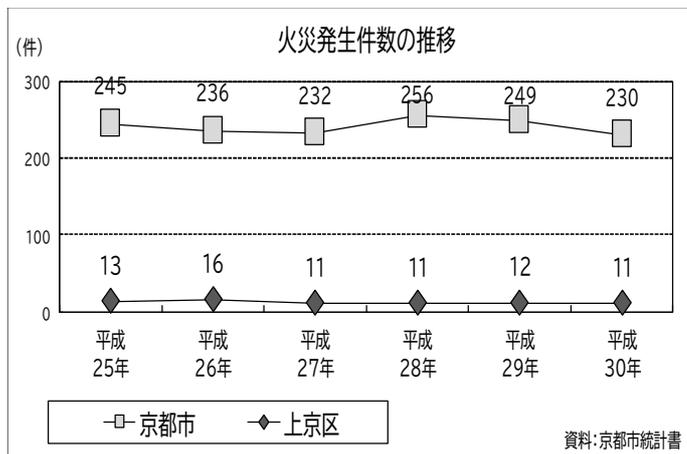
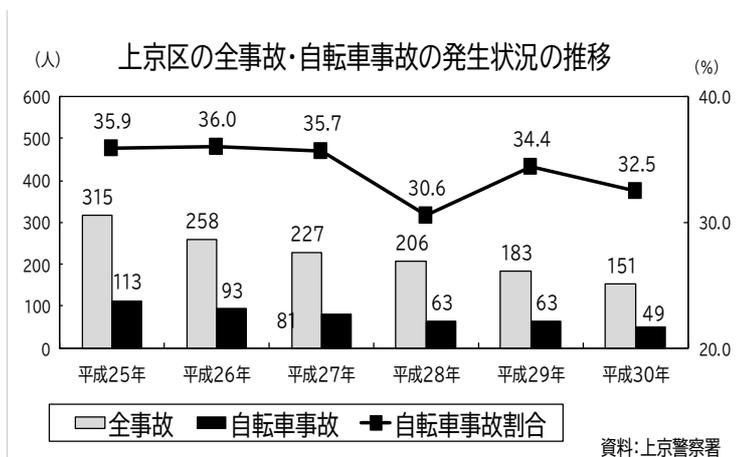
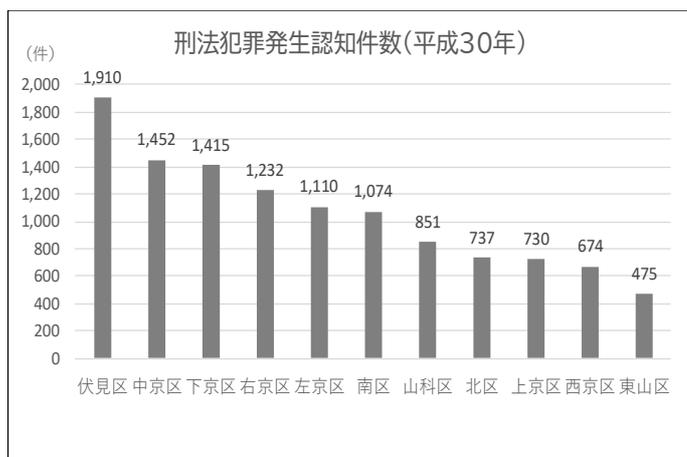
環境、生活を楽しむ、シェアハウス、ゲストハウス、民泊、門掃き、挨拶、銭湯、商店街、年中行事、伝統行事、地域文化、水と緑のある暮らし、スローライフ、兼業、多拠点居住、景観、生物多様性、地域猫、ほんまもん、フリマ、てづくり市、路地、集合住宅、くらしを言語化、交通手段、生活空間、おひとり様に参加できるコミュニティ、情報共有、移住、地域力、地域コミュニティ、歴史、文化、先人の知恵、みんなが担い手、協働、大学生、外からの評価、外への発信、働き方、御用聞き、ICTの活用、新しい生活スタイル、マイバック・レジ袋、地縁と志縁

(2) 安心安全

上京区では、平成28年12月に、区民約500人から回答を得たアンケート調査で、88.5%の区民が「総じて上京区は安心して暮らせるまち」と回答しており、犯罪認知件数や交通事故の減少傾向、火災発生件数が横ばいに推移、人口当たりの刑法犯認知件数が、11行政区中、低い方から第3位（平成30年:730件）といったデータからも、体感治安が非常に高いまちです。

他方で、犯罪認知件数の中でも、自転車盗の比率や、自転車・高齢者に関わる交通事故の割合が高いことや、区内17学区のうち15学区が木造密集市街地に指定され、地震や火災の発生によって甚大な被害を受けやすい都市構造であるといった課題もあります。

また、約10.7%の空き家が存在（平成30年住宅・土地統計調査）し、高齢化の進展に伴い、今後更なる増加が見込まれます。放置された空き家は、まちの活力低下、地域の防災や防犯、生活環境、景観などに悪影響を生じさせることから、所有者個人を超えた地域全体の課題となってきました。



上京区まちづくり円卓会議「安心安全部会」で議論された際に出されたキーワード

防犯、防災・減災、交通安全、ゲストハウス、民泊、割れ窓理論、井戸、水と緑、公園、門掃き、挨拶、こども110番の家、路地、空き家、避難路、集合住宅、自転車マナー、ペットと避難、避難意識、わかりやすい日本語、備蓄、啓発活動、多言語対応、多頭飼育崩壊、ごみ屋敷、非常食のアレルギー対応、感染症、地域力、地域コミュニティ、歴史、文化、先人の知恵、みんなが担い手、協働、大学生、SNS、ICTの活用、ソーシャルディスタンス（社会的距離）の確保

(3) まちの活力

地域の主要産業である西陣織の出荷額は、24年間で約9割減少（平成2年:2,795億円→平成26年:334億円）しています。

それに伴い、職住近接の暮らし（平成2年:13.3%→平成27年:3.6%）、歴史ある京町家（平成20年:9,807件→平成28年:5,690件）の減少や、商店街の衰退といった悪循環に陥っています。

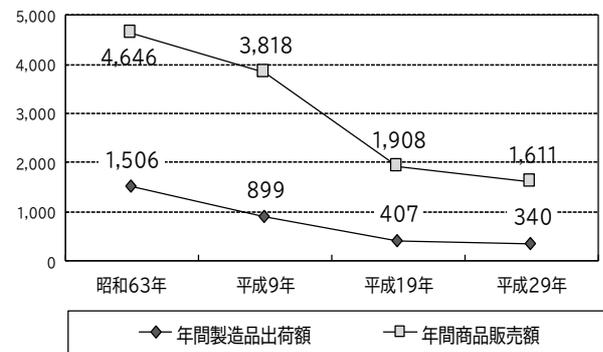
地域活性化の観点からも、歴史や文化をはじめとした区内の有形無形の資源を活用した地域の潤い創出や、西陣をはじめとする地域のブランド力発信、スタートアップ起業への支援等を通じ、賑わいのあるまちづくりに取り組む必要があります。

【データ9】
西陣織出荷額の推移



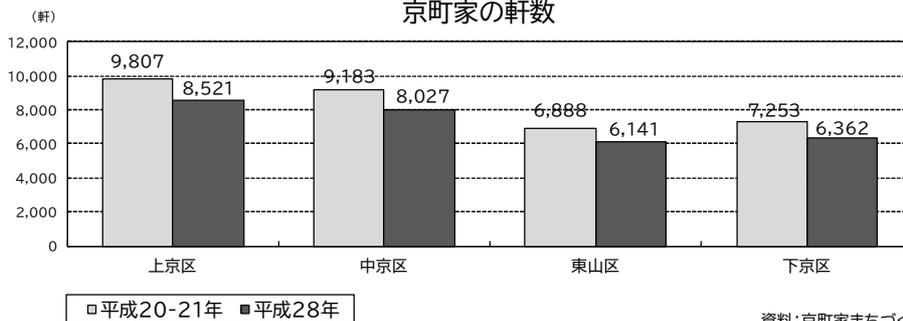
掲載データ調整中

（億円） 上京区の年間製造品出荷額・商品販売額



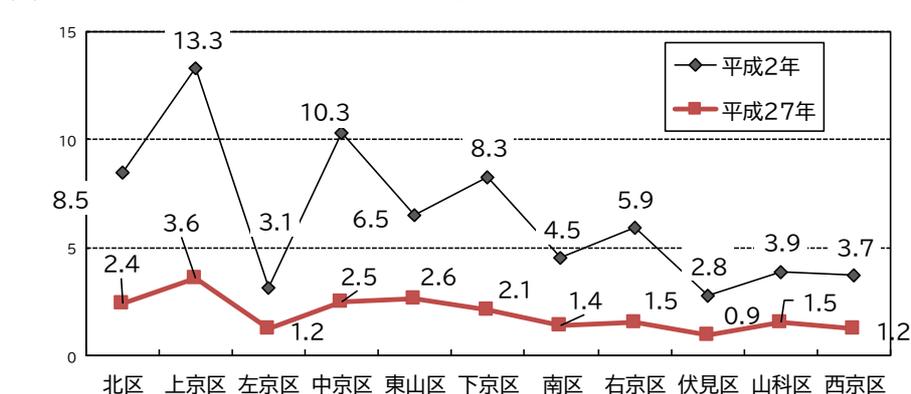
資料:工業統計調査(各年)商業統計(各年)

京町家の軒数



資料:京町家まちづくり調査

区内常住従業員のうち自宅で製造業に従事する者の割合



資料:国勢調査



上京区まちづくり円卓会議「まちの活力部会」で議論された際に出されたキーワード

産業、観光、商業、生業づくり、職住一体、ゲストハウス、民泊、交通手段、商店街活性、空き家活用、銭湯、小商い、若手職人育成、成婚支援、地域活性化イベント、マップづくり、情報発信ツール、ラジオ、SNS、てづくり市、人が集まる空間、ほんまもん、伝統産業、ICT、地域ブランド、多言語対応、年中行事、伝統行事、地域文化、移住、多様性、地域力、地域コミュニティ、歴史、文化、先人の知恵、みんなが担い手、協働、大学生、外からの評価、外への発信、感染症、巣ごもり、テイクアウト、デリバリー

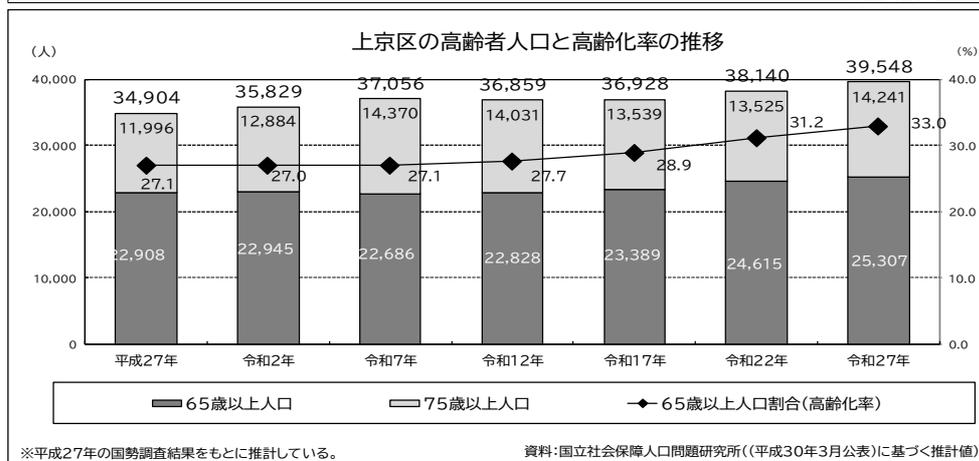
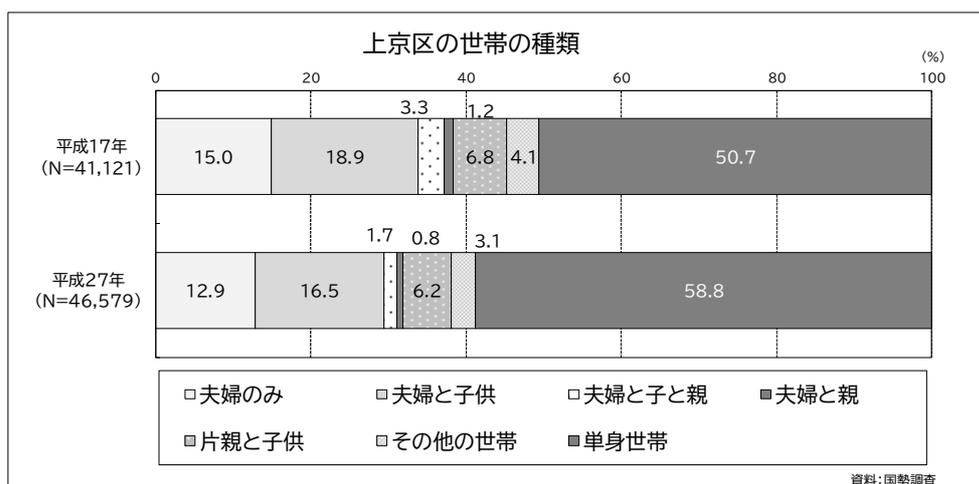
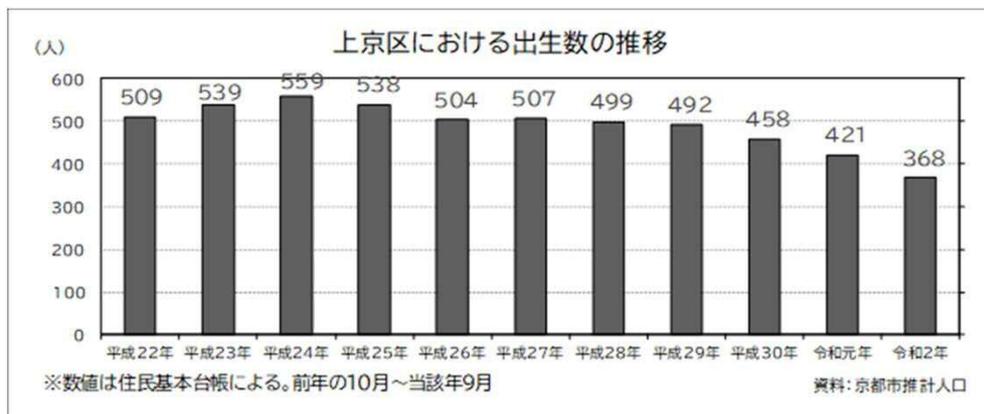
(4) はぐくみ・継承

上京区での年間出生数は減少（平成22年：509名→令和2年：368名）しており，地域活動の担い手であり，地域における消費のリード役でもある子育て世帯が減少しています。

また，高齢化率の上昇により高齢単身世帯が増加していることも懸念されます。

そのため，子育て環境の充実や，健康寿命の延伸につながる様々な施策等を実施する中で，世代を超えた交流や，区民一人ひとりの「生きがい」を創出し，住み慣れた上京のまちで，慣れ親しんだ暮らしを，いつまでも続けることができる取組が重要です。

また，いわゆる8050問題や，それに付随する「ひきこもり」の問題を抱える家庭，一人親世帯をはじめとする子育て世帯が，地域や日常生活の中で「つながりの貧困」に陥らないような支え合いの取組も重要です。



上京区まちづくり円卓会議「はぐくみ・継承部会」で議論された際に出されたキーワード

子ども，少子化，幼児，小学生，中学生，高校生，引きこもり，貧困，ひとり親，子育て世代応援，高齢者，買い物支援，ごみ捨てサポート，フレイル，ソリデール，認知症，健康意識向上，おひとり様，出会いの場，生活支援，多様性（ダイバーシティ），多文化共生，相互理解，就労，障がい，8050問題，わかりやすい日本語，年中行事，伝統行事，地域文化，地藏盆，子ども食堂，遊び場，運動できる場所，地域力，地域コミュニティ，歴史，文化，先人の知恵，みんなが担い手，協働，大学生，外からの評価，外への発信，いきづらさ，感染症，ICT活用

第3章 まちづくりの基本理念と4つの将来像

1 基本理念

上京新時代～文化と絆で未来を創る！

わたしたちのまち上京区は、平安遷都以来1200年以上の悠久の歴史の中で、世界に誇る有形無形の文化が培われ、人々の暮らしの中にも息づいている極めて文化度の高いまちです。

同時に、元学区に代表される強固な地域コミュニティ、地域の絆による、「自治・福祉・防災」を三位一体で進める住民主体のまちづくりの伝統が、他に追随を許さないほどの、しなやかな復元力（レジリエンス）を育み続けています。

こうした上京区の特徴である文化と絆を礎としてまちづくりが進められてきた結果、例えば、直近の調査で88.5%もの区民が、上京区が安心して暮らせるまちと認識されているなど、たいへん住みよいまちとなっています。

しかし、この住みよいまちにも他の地域と同様に、少子化による人口減少や長寿社会の到来、西陣をはじめとする産業の衰退などにより、かげりが見えてきていることは否めません。

更には、新型コロナウイルス感染症の拡大という危機に直面し、その傾向は更に加速しているとさえ言えます。

こうした認識のもと、上京区の未来につながる、今後5年間のまちづくりをスタートするうえでの、基本となる理念を「上京新時代～文化と絆で未来を創る！」とします。

文化と絆、歴史・文化力と地域力という上京の宝物を存分に活用しつつ、現状に安住することなく、コロナ禍での経験も一つの糧としながら、守るべきものは徹底的に守り、変えるべきことは躊躇することなく改革する。新たな挑戦をしていくという上京人の気概がこの基本理念に込められています。

2 4つの将来像

基本理念に基づき、「ライフスタイル」「安心安全」「まちの活力」「はぐくみ・継承」の切り口※で、以下の4つの将来像を設定します。令和という新時代がスタートし、令和4年度には文化庁が区内に移転してくるというエポックを迎える上京は、令和元年の上京区140周年を機に、一層強められた従来の担い手に加え、新たに広げられた多様な主体との絆で、みんなが自分ごととして、上京の未来を力強く創造します。

将来像 1	幸せを分かち合うまち
将来像 2	心安らかに暮らせるまち
将来像 3	賑わいを創出し、豊かさを実感できるまち
将来像 4	ひとりひとりが輝き、希望の持てるまち

(※) 将来像の設定に当たっての切り口



第4章 将来像ごとの政策体系

上京区では、まちづくりの課題や、新しい創造力で輝く未来を見据えながら、計画の基本理念を「上京新時代～文化と絆で未来を創る！」のもと、その理念を実現するための4つの将来像を設定し、次の5年間のまちづくりを進めます。

第4章では、4つの将来像ごとに、その将来像を実現するためのいくつかの方針（政策）と、その方針に沿って、今後5年間において個々の事業を具体化するための推進施策と取組例を掲げるとともに、取組の中心となる実施主体を「市（京都市及び国、京都府）」、「区（上京区及び区内行政諸機関）」、「地（地域：区民、事業者等）」の区分で示し、協働・共汗で上京の輝かしい未来を創り上げます。

また、将来像ごとに「上京らしさ」「モデル性」「先進性」等のある「芽が出る、広がる！リーディングプロジェクト」（※）を設定し、重点的に取り組んでいきます。

（※）芽が出る、広がる！リーディングプロジェクトとは

- ① 上京の強みを生かすなど、上京らしい取組であること（上京らしさ）
- ② 取組により区内に広く効果が及ぶ取組（モデル性）
- ③ 新型コロナウイルスの体験・知見などによって得た既存の概念をいい意味で改革する取組（先進性）
- ④ 可能な限り、民間主導、かつ多くの主体者が関わることにより、地域力の向上や持続可能性を高めることが期待される取組（レジリエンス）
- ⑤ 区基本計画の計画期間が、5年間の短期間であることから、実現可能性が高く、また、地域や民間の知恵を生かす意味からも、既に先進的な例がある取組（実現可能性）

1 4つの将来像を実現するための各方針

【将来像1】

幸せを分かち合うまち

(方針1)
文化を大切にするまちづくり

(方針2)
多様な絆で支えるまちづくり

(方針3)
人にも環境にもやさしいまちづくり

【将来像2】

心安らかに暮らせるまち

(方針1)
体感治安の高いまちづくり

(方針2)
「自助」・「共助」・「公助」が
連携した災害に強いまちづくり

(方針3)
交通安全の意識が強いまちづくり

【将来像3】

賑わいを創出し、豊かさを実感できるまち

(方針1)
地域産業の活性化と魅力発信

(方針2)
大学や地域と連携して進める
まちづくり

(方針3)
商店街等の活性化

(方針4)
空き家等を活用したまちづくり

(方針5)
豊かな地域資源を活かした
上京型観光の推進

【将来像4】

ひとりひとりが輝き、希望の持てるまち

(方針1)
誰もが居場所を持つことができる
まちづくり

(方針2)
子どものすこやかな成長を応援する
まちづくり

(方針3)
高齢者がいきいきと暮らせる
まちづくり

2 将来像別の取組方針

将来像1 幸せを分かち合うまち

上京区では、悠久の歴史の中で培われた多彩な文化が日常生活に息づき、地蔵盆や夏祭りなどの地域行事が大切に受け継がれています。また、文化の源ともいえる鴨川の清らかな流れや、御苑・寺社仏閣等の緑が四季を彩る山紫水明の豊かな自然と調和した節度ある暮らしが営まれてきました。

しかしながら、近年の急速な少子化等による人口減少社会の到来、高齢化の進行、地域文化等を支える担い手不足の顕在化等により、地域コミュニティにおける文化や行事等の継続が危ぶまれています。とりわけ、コロナ禍によって中止を余儀なくされた地域行事の再開に当たっては、例年以上のエネルギーを要することが懸念されており、住民同士が、ライフスタイルや価値観の多様性を尊重し合い、多くの住民が参加するまちづくりを推進する必要があります。

また、環境面でも、持続可能なまちづくりに向け、地球温暖化を防ぎ豊かな自然環境を守るための世界・国レベルでの取組と併せ、区民一人一人が先人の営みに習い、環境に配慮した暮らしを実践することが求められます。

このため、区民一人一人が、上京区が誇る文化力、地域力を土台に、環境にも配慮し、多様なライフスタイルを実践できるまちづくりを進めます。

方針1

文化を大切にすまちづくり

上京区においては、長い歴史の中で、茶道、華道、和歌、能、狂言などの伝統や、西陣織をはじめとするものづくりの文化など世界に誇る様々な「ほんもの」の文化が脈々と受け継がれ、磨き上げられてきました。また、こうした文化は、町並みや人々の地蔵盆や年中行事など、日常生活に溶け込んでいます。

将来にわたって、上京区の宝である豊かな文化を継承し、更に磨きをかけることにより、人々の生活の質と都市格の向上を図ります。

【推進施策1】暮らしに息づく豊かな文化等の継承・発展

取組例	地蔵盆や年中行事等の身近な文化の継承・発展	市	区	地
取組例	伝統文化や芸能に親しむ機会づくり	市	区	地
取組例	歴史や文化の魅力を次世代に伝える取組	市	区	地
取組例	京町家や路地のある町並みの魅力発信	市	区	地

【推進施策2】文化力の向上と魅力発信

取組例	文化庁との連携による文化力の向上	市	区	地
取組例	豊かな歴史や文化を活用した上京の魅力発信	市	区	地
取組例	和装を気軽に楽しむ機会づくり	市	区	地

芽が出る 広がる！



リーディングプロジェクト

<文化庁全面移転記念「京都御苑でお茶会」プロジェクト>

核家族化や生活スタイルの変化等により、地域独自の伝統・生活文化に触れる機会が減少しています。

若者等が、地域で育まれてきた文化に親しみ・触れることができる機会の創出や、地域文化の継承と発展が求められています。

本事業では、文化庁の全面移転に合わせて、上京区140周年記念事業で実施された「京都御苑での上京大茶会」を更に充実して実施し、上京全体の地域力の向上を図るとともに、上京の歴史・文化力を広く発信します。

😊 こんな取組が実施されました！

→ 令和元年11月に、上京区140周年記念事業として、上京区のシンボリック的存在であり、区民の憩いの場でもある京都御苑において、全17学区が連携して企画・運営を行う「京都御苑で上京大茶会」が実施され、約1,500名の来場者が、野点・立礼のお茶会を堪能されました。

方針2

多様な絆で支えるまちづくり

上京区は、自治会・町内会加入率が73.4%（京都市平均67.7%（平成30年度現在））と、隣近所で支え合う「顔の見える関係」がまちづくりを支えています。一方で、生活様式や価値観の変化に伴う単身世帯の増加（約6割）や共同住宅比率の上昇（約6割）など、地域を取り巻く環境が多様化しています。

このため、世代や立場を超えた様々な暮らしや生き方も踏まえた多様な絆を大切にする地域コミュニティの活性化に取り組みます。

【推進施策1】 地域の絆を大切にするまちづくり

取組例	隣近所など区民同士の「顔の見える」関係づくり		区	地
取組例	夏祭りや体育祭等を通じた交流の促進		区	地
取組例	ICT技術を活用した新しい関係づくり	市	区	地

【推進施策2】 多様で多層な主体が重なり合うまちづくり

取組例	年代や国籍などを越えた多様な人々が協力し合い活躍できる環境づくり	市	区	地
取組例	区民のまちづくり活動の活性化と活動団体の交流促進	市	区	地

芽が出る 広がる！

リーディングプロジェクト

<地域をつなぐICT活用プロジェクト>

世界的な感染症の拡大や、大規模な自然災害等によって、日常生活や地域活動が停滞するなどの支障が生じています。

このため、情報、サポート等の不足による不安や孤独を感じておられる方への支援や居場所づくりが課題となっています。

本事業では、災害等が発生した場合に、つながりやサポートを必要とする高齢者等を対象に、手持ちのスマートフォンをはじめとするICTを活用した地域や家族等との情報通信手段等を学ぶことで、災害時や緊急時における地域コミュニティの強化を図ります。

😊 こんな取組が実施されています！

→ 今回の新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、上京区社会福祉協議会、各学区の社会福祉協議会及び上京区役所が連携し、上京区内全17学区の各種団体を対象に、スマホ教室が開催されています。

方針3

人にも環境にもやさしいまちづくり

自然を大切にする取組は、持続可能なまちづくりの原点であるとともに、地域における憩いや安らぎの創出、周囲との調和や快適な暮らしを考えるきっかけにつながります。

このため、一人一人が節度のあるエコな暮らしを実践し、人や社会、環境に優しい消費活動などを推進します。

【推進施策1】暮らしの中で自然を大切にする取組

取組例	身近な自然や緑空間を守る取組の促進	市	区	地
取組例	緑化活動を通じたコミュニティづくり		区	地
取組例	環境にやさしいライフスタイルの実践	市	区	地

【推進施策2】エコでつながるまちづくり

取組例	地産地消の推進と魅力発信	市	区	地
取組例	作り手の思いを大切にする消費の普及啓発	市	区	地
取組例	上京区ならではのエコ活動の推進		区	地

芽が出る 広がる！



リーディングプロジェクト

<「立売」で育む地産地消推進プロジェクト>

上京区内でかつて行われていた「立売」に習って、区内や近郊で採れた農林水産物を「ちびっこ広場」等を活用して販売するマルシェを開催し、地産地消を推進するとともに、環境保全やエシカル消費等の啓発や、地域住民の交流を図る。

😊 こんな取組が実施されています！

→ 成逸学区，西陣学区，桃菌学区，聚楽学区の4学区が主催する朝市「西陣の朝市マルシェ」が開催されています。

会場では，飲食，物販棟のブースを設け，地域の人々の交流，親睦が図られています。

将来像2 心安らかに暮らせるまち

上京区は、平成26年7月に「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」上京区推進協議会を立ち上げ、「防犯対策」、「防災・環境整備」、「交通安全」について、オール上京で「絆で織りなす 安心安全なまち上京」に向けた様々な取組を推進してきました。

その結果、平成30年の「刑法犯認知件数」が、前区計画開始時の平成23年から約37%減少※するなど、大きな成果が得られています。

(※)「平成元年版 京都市統計書(犯罪認知件数)平成23年:1,153件 → 平成30年:730件」

しかしながら、防犯対策では、上京区の特長として、刑法犯認知件数に占める自転車盗の割合が高く、また、防災・環境整備では、都市構造上、上京のまちならではの密集市街地における防火対策や、近年の地震、豪雨、台風の自然災害への防災対策が課題となっています。

また、交通安全に関しては、自転車や高齢者に関する事故件数が高止まりしています。

このため、引き続き、区民、地域、行政が一体となり、上京区の特長を踏まえた防犯・防災・交通安全対策を進めます。

方針1

体感治安の高いまちづくり

上京区では、これまで、地域や行政をはじめとする様々な機関が連携し、地域における様々な防犯対策が実施されてきました。

その結果、住民の高い防犯意識が醸成され、犯罪を未然に防止する「地域の目」が行き届いたまちとなっています。

しかしながら、空き家の発生による地域力の低下や、いわゆる民泊施設等と地域との間での良好な関係づくりといった課題も顕在化してきています。

このため、日頃の声掛けやパトロール等を通じて地域でのつながりを強め、住民が心やすらかに安心して暮らすことができるまちづくりに取り組みます。

【推進施策1】 誰もがつながり、助け合う地域コミュニティづくり

取組例	自治会・町内会への加入促進	市	区	地
取組例	声掛け(あいさつ)による近所とのつながりづくり		区	地

【推進施策2】 高い防犯意識と犯罪を許さない気運の醸成

取組例	青色防犯パトロールの実施	市	区	地
取組例	各種防犯イベント(防犯教室・講習会や啓発活動)の実施		区	地
取組例	「こども110番のいえ」への点検・整備・登録		区	地
取組例	「子ども見守り隊」による声掛け運動の実施	市	区	地

【推進施策3】 犯罪を許さない環境づくり

取組例	地域見守り箱の設置拡充		区	地
取組例	防犯カメラの設置促進	市	区	地
取組例	安心安全情報の発信	市	区	地

【推進施策4】 空き家対策等の推進

取組例	地域における空き家対策の促進	市	区	地
取組例	地域と行政が連携した民泊パトロールの実施	市	区	地
取組例	地域と民泊事業者間における協定締結の推進	市	区	地
取組例	不良な生活環境（いわゆる「ごみ屋敷」）を解消するための取組の実施	市	区	地

方針2

「自助」・「共助」・「公助」が連携した災害に強いまちづくり

近年、全国的に、豪雨や台風などの自然災害が多発・大規模化しており、地域における防災力の強化が求められています。

また、上京区の火災件数は市内でも屈指の少ない状況にありますが、密集市街地・細街路が多い上京区の特性を踏まえ、より一層、延焼火災を想定した対応力の強化を図っていく必要があります。

このため、これまで築かれてきた上京の地域力を基盤としながら、命を守る区民一人一人の自助はもとより、高齢者や障害者等の災害時要配慮者を地域全体で守る共助や行政による公助の力をそれぞれ高め、すき間なく連携させることにより、災害に強いまちづくりに取り組みます。

【推進施策1】 区民一人一人の命を守る取組

取組例	いざという時に隣近所で助け合える関係づくり			地
取組例	「上京の安心安全点検日（毎月25日）」に合わせた非常持ち出し品や家庭用備蓄品の自主的な点検・準備			地
取組例	日頃からのハザードマップによる避難場所と避難経路の確認			地
取組例	各種防災イベント（防災教室・講習会や合同訓練）への参加	市	区	地
取組例	地域の災害史から学ぶ機会の創出		区	地

【推進施策2】 地域防災活動の推進

取組例	自治会・町内会への加入促進による地域での関係性の強化	市	区	地
取組例	新たな避難所の確保及び感染症予防を考慮した避難所運営力のアップ	市	区	地
取組例	災害時要配慮者や在宅避難者への支援の充実	市	区	地
取組例	各学区での防災訓練の充実		区	地
取組例	初期消火に対応する消火器設置場所の共有		区	地
取組例	地域一斉清掃を通じた地域の安心安全点検の実施		区	地

【推進施策3】 災害対策機能の強化

取組例	災害時に備えた地域団体等と行政との連携強化	市	区	地
取組例	新たな避難所の確保及び感染症予防を考慮した避難所運営力のアップ（再掲）	市	区	地
取組例	新たな視点を取り入れた上京区総合防災訓練の実施		区	地
取組例	備蓄物資配備の拡充	市	区	地
取組例	社寺等の協力による防災拠点づくり		区	地
取組例	歴史都市京都における密集市街地・細街路対策	市	区	地
取組例	学校や地域での防災教育の充実	市	区	地

芽が出る 広がる！



リーディングプロジェクト

＜社寺等の協力による地域の防災拠点づくりプロジェクト＞

災害発生時を想定した平時からの備えは非常に重要ですが、災害の規模や被害を事前に正確に把握することは困難です。

そのため、平時から、万が一の災害に備えた、避難施設や支援物資等の供給拠点の多様化を通じた災害対応力の向上を図る必要があります。

本事業では、上京区内に多く立地する社寺等の空間・資源に着目し、社寺等と地域、行政が連携し、災害発生時の避難者の受入・支援物資等の供給拠点の充実を図る取組を進めます。

😊 こんな取組が実施されています！

→ 成逸学区では、平成30年1月に「町内会を基本とした防災のまちづくり」の取組として、学区の指定避難所である北総合支援校の補完避難所として、興聖寺との間で、「成逸地域避難所協定」が締結されました。

方針3

交通安全の意識が高いまちづくり

近年、上京区では、交通事故の発生件数は減少傾向にありますが、とりわけ、自転車や高齢者が関係する事故は高止まりとなっています。

これは、起伏の少ない上京区においては、多くの区民が、便利で環境に優しい乗り物である自転車を利用していますが、自転車マナーの低下や狭い道に電柱などがあり、歩行者の安全な通行を妨げていることが、その原因として挙げられます。

このため、歩行者、自転車、自動車が安全に移動できるよう、交通マナーの啓発や環境整備に取り組みます。

【推進施策 1】 歩行者を守る安全対策

取組例	地域安全マップの作成	市	区	地
取組例	「子ども見守り隊」による交通指導の実施	市	区	地

【推進施策 2】 自転車及び自動車運転者のマナー向上と安全な環境の整備

取組例	各種交通イベント（交通安全教室・講習会や啓発活動）の実施	市	区	地
取組例	思いやりのある交通マナー意識の向上	市	区	地
取組例	わかりやすい標語の考案	市	区	地
取組例	交通安全教室の実施	市	区	地
取組例	運転免許証を自主返納しやすい環境づくり	市	区	地
取組例	自転車走行推奨帯の設置による走行環境の整備	市	区	地
取組例	ゾーン30※の推進	市	区	地
取組例	自転車の防犯登録や損害賠償保険への加入促進	市	区	地

(※) ゾーン30とは

自動車事故抑止のため、市街地の住宅地など生活道路が密集する区域（ゾーン）を指定し、車の最高速度を時速30キロに制限する交通規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内の速度抑制や、ゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制等を図る生活道路対策。

将来像3 賑わいを創出し、豊かさを実感できるまち

上京区では、西陣織をはじめとした地域産業の隆盛により、まちや商店が活気に溢れ、堅固な地域コミュニティが形成されてきました。

しかしながら、生活様式の変化等により、地域の主要産業である西陣の低迷が続くなど、地域の活力低下が懸念されています。地域産業の活性化は、地域の賑わい、地域コミュニティの維持・発展に必要不可欠であることから、ものづくりの文化を活かした新たな産業の育成や、有能な人材の確保などに取り組む必要があります。

また、観光面では、豊かな歴史、多彩な文化、数多くの史蹟や寺社仏閣など、魅力的な地域資源が数多く存在していますが、京都観光の時間・季節・場所の分散化の一翼を担うまでには至っておらず、上京ならではの「ほんまもの」とふれあう観光や歩く観光の充実など、区民生活の豊かさと多くの継承・創造につながる質の高い観光の展開が求められています。

このため、産業、観光等の振興を通じ、まちの活力や賑わいの創出に取り組みます。

方針1

地域産業の活性化と魅力発信

上京区には、西陣織産業をはじめとする高いデザイン力や技術力を持つ企業が多く存在し、付加価値の高いものづくりの文化が息づいています。

こうした地域ならではの産業を継承し、新たな創造を図っていくため、魅力発信や若者と地域企業とのマッチング機会を創出し、地域産業の活性化に向けた取組を推進します。

【推進施策1】 西陣を中心とした地域活性化ビジョンの推進

平成31年1月に策定された「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」において、概ね50年先を見据え、目の前の課題に対して今後約10年間（平成30年度～令和10年度）の期間で取り組むべき方策に京都市と連携して取り組みます。

【推進施策2】 地域産業の新たな担い手の創出

取組例	地域や金融機関等と連携したスタートアップ（起業家）支援	市	区	地
取組例	地域企業と若者等とのマッチング機会の創出	市	区	地
取組例	空き家等の空きスペースを活用したリモート・シェアオフィスの創出支援	市	区	地

【推進施策3】 地域ならではの産業等の魅力発信

取組例	西陣をはじめとする「付加価値の高いものづくり文化」の発信	市	区	地
取組例	職住近接をはじめとする多様な働き方の発信	市	区	地

上京区では、人口の約10%を占める大学生をはじめとした若者の力によって、多くの主体的なまちづくり活動が展開されており、近年、社寺を活用した賑わいの創出や、空き家の有効活用といった地域課題に、地域と若者・NPOが協働して取り組むなど、新たなまちづくりの連携が生まれています。

このため、地域と若者の交流や、若者の目線で実施するまちづくり活動を積極的に支援し、まちの活性化につながる新たな芽の育成に取り組めます。

【推進施策 1】 若者やNPO等と地域との交流促進

取組例	地域と協働するまちづくり活動の育成	市	区	地
取組例	まちづくり活動団体同士の交流による新たなつながりづくり	市	区	地
取組例	婚活を通じた出会いの場の創出		区	地

【推進施策 2】 大学生と地域の連携促進

取組例	大学生による地域参画の支援	市	区	地
取組例	大学生が取り組むまちづくり活動の促進	市	区	地

芽が出る 広がる！



リーディングプロジェクト

<地域企業と大学生による地域課題解決プロジェクト>

上京区においては、地域と大学生の連携によるまちづくり活動が活発に行われています。

しかしながら、大学卒業と同時に、就職等により上京区を離れる学生が多く、子育て世帯の減少や、地域企業による人材確保を困難にしています。

本事業では、大学生が、産業面からの目線で地域の現状や課題を学び、将来の就職等における選択肢を広げる取組として、地域企業、大学及び上京区による産学官が協働し、京都中小企業家同友会上京支部の協力の下、大学生が地域の中小企業家とともに、地域における中小企業の役割や経営課題等について、共に考え、課題を解決する取組を実施します。

😊 こんな取組が実施されています！

→ 平成31年に実施された「上京区140周年記念事業」では、京都中小企業家同友会上京支部の皆様が主体となり、「上京de婚活」事業が実施されました。会場では、上京ならではの文化の体験を通じ親睦を深めながら、新たな出会いの場を楽しむ企画が実施されました。

方針 3

商店街等の活性化

区民の衣食住を支える身近な商店街や商店は、日常の交流や暮らしに必要不可欠な場所であるとともに、そこで働く人々は、地域コミュニティの貴重な担い手でもあります。このため、地域の生活を支える商店街等と連携し、地域の活性化に取り組みます。

【推進施策】 地域に根ざした商店街等の活性化

取組例	商店と消費者との交流の促進	市	区	地
取組例	商店街と区民をつなぐまち歩き・食べ歩きツアーの実施	市	区	地
取組例	商店街における生活・健康情報の発信	市	区	地
取組例	新たな担い手による空き店舗の活用促進	市	区	地

方針 4

空き家等を活用したまちづくり

上京区には、多くの空き家が存在し、まちの活力低下、防災、環境面の懸念から、これまで、地域が中心となった空き家対策が進められてきました。

一方で、ネガティブに捉えられがちな空き家ですが、人口の減少が続く中で如何にポジティブなものに転換できるかという発想が、これからのまちづくりに求められています。

このため、地域や専門家と連携を図りながら空き家の有効活用や、地域で宿泊施設を営む方々と連携して地域の活性化に取り組みます。

【推進施策 1】 空き家の活用促進

取組例	適切な相続や登記に向けた空き家対策の専門家との連携	市	区	地
取組例	学区単位での空き家流通に関する仕組みの構築		区	地

【推進施策 2】 宿泊施設運営者と取り組む地域活性化

取組例	宿泊施設運営者の地域参画の推進		区	地
取組例	宿泊施設滞在者に向けた地域の魅力発信		区	地

芽が出る 広がる！

リーディングプロジェクト

<空き家流通対策の仕組みの構築プロジェクト>

上京区は、内外から居住希望者が多い一方で、数多くの空き家が生じており、防災の面からも課題であり、また、空き家の有効活用によって人口増にもつながる。このため、主に学区を単位に、行政等と連携した空き家流通の仕組みを構築する。

😊 こんな取組が実施されています！

→ 正親学区では、学区と町内会、専門家、行政等の連携により、空き家対策に取り組まれています。活動に当たっては、これまでの住民と住民福祉協議会との信頼関係をもとに、より一層、空き家対策を進めていくため、NPO法人を設立し、空き家の問題を、所有者等だけの問題ではなく、地域のまちづくりの問題と捉え、関係者と協力しながら、いつまでも住み続けられる賑わい・活気あるまちづくりに取り組まれています。

方針5

豊かな地域資源を活かした上京型観光の推進

上京区には、豊かな歴史、多彩な文化、数多くの史蹟や寺社仏閣等、魅力的な地域資源が数多く存在しており、まち歩き等を通じ、こうした奥深い歴史・文化にふれることができます。

このため、こうした地域資源の活用を通じ、多くの人々が上京の魅力にふれることができる取組を推進します。

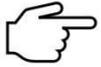
【推進施策1】 「ほんまもの」とふれあう観光の充実

取組例	上京に息づく伝統文化、社寺及び文化財等をまちづくりに活かす取組の推進	市	区	地
取組例	地域における「語り部活動」の推進		区	地

【推進施策2】 歩いて楽しむ観光の充実

取組例	まち歩きマップやスマートフォンアプリを活用した観光情報等の発信	市	区	地
取組例	交通情報の効果的な発信	市	区	地
取組例	まち歩き観光の拠点づくり	市	区	地

芽が出る 広がる！



リーディングプロジェクト

<「地域と共存する上京ならではの観光スタイル」の創造・推進プロジェクト>

新型コロナウイルス感染症によって、京都市全体がコロナ以前の観光に戻らないポストコロナ社会における観光の在り方を模索している中、一つのモデルとして、「上京型観光モデル創造推進協議会」を設置し、ポストコロナ社会における「地域と共存する上京ならではの観光スタイル」を創造し、推進することにより、上京の活性化を図るとともに、京都観光における3つの分散（時間、季節、場所）等に寄与するための取組を推進します。

😊 こんな取組が実施されています！

→ 上京区では、上京区まちづくり円卓会議等によってつながった団体等により、西陣や東陣、名所・旧跡など様々なテーマで地域を巡るまち歩きが実施されるなど、区民が主体となった地域の魅力発信の取組が実施されています。

将来像4 ひとりひとりが輝き、希望の持てるまち

上京区では、明治期の番組小学校創設以来、「地域の子どもは地域で育てる」という誇り高い育み文化の伝統と、福祉とまちづくりを一体的に進める学区を中心とした力強い福祉力が培われてきました。

しかしながら、近年、高齢化や生活様式の変化による地域コミュニティの弱体化に加え、ひきこもり、8050問題※1、セルフネグレクト※2といった、複雑かつ多様な課題への対応が求められるなど、「地域で抱える力」にも限界が見え始めています。

このため、少子化・長寿化社会の一層の進展を見据え、地域、関係団体、行政の一層の連携による福祉力の維持・向上を図り、誰もが社会の中で、つながりを実感し、安心して暮らすことができるまちづくりに取り組みます。

(※1) 8050問題

80代の親とひきこもり状態の50代の子が同居する世帯の孤立化・困窮化に伴う様々な問題

(※2) セルフネグレクト

介護・医療サービスの利用を拒否するなどにより、社会から孤立し、生活行為や心身の健康維持ができなくなっている状態

方針1	誰もが居場所を持つことができるまちづくり
------------	-----------------------------

上京区には、子どもから高齢者、障害者、外国人など、多くの人がお互いの立場、価値観及び文化等の違いを認め合いながら、日々の暮らしを営んでいます。

しかしながら、それぞれの垣根が全てないとは言えず、また、単身世帯の増加などによって「孤立」が大きな課題として顕在化してきています。

このため、区民がお互いに認め合い、支え合い、助け合える関係人口の増加に努めます。

【推進施策1】 お互いを尊重し理解し合う取組の推進

取組例	上京区民ふれあい事業等を通じた交流の促進		区	地
取組例	まちづくり活動支援事業等による自主的な活動の支援		区	地
取組例	「みんな仲間！上京文化芸術祭」等を通じた多様な人が文化芸術活動等を発表し合うことで相互理解を深める場の創出		区	地
取組例	障害者の自立支援等を通じ社会進出を促す取組の推進	市	区	地
取組例	こころの健康づくり等を支援するためのネットワークの強化	市	区	地

【推進施策2】 多様なつながりを育む取組の推進

取組例	小学生による敬老記念のお祝い訪問等を通じた世代を超えたつながりづくり		区	地
取組例	働く世帯が参画するまちづくり活動の推進		区	地
取組例	誰もが安心できる居場所づくりに向けた「こころの健康づくり推進事業」の推進	市	区	地
取組例	地域活動の活性化に向けた情報提供とネットワークづくりの支援	市	区	地

方針 2

子どものすこやかな成長を応援するまちづくり

上京区では、年間の出生数が、前計画策定時から約32%減少するなど少子化が急速に進んでおり、まちの活力を維持する観点からも、安心して子育てができる環境づくりに、地域、関係団体、行政が連携して取り組む必要があります。

また、核家族化や生活様式の変化等により、地域で子どもを見守る機会が減少しており、各家庭内での「不登校」や「ひきこもり」問題が、見えにくくなっています。

このため、将来にわたって、地域で子どもたちがいきいきと暮らし、安心して子育てをすることができる取組の充実や環境づくりを進めます。

【推進施策 1】 子どもがいきいきと暮らすことができる取組の充実

取組例	上京の子どもまつり等を通じた地域や文化にふれる機会の充実	市	区	地
取組例	「中学生プロジェクト」等を通じた子どもが考えるまちづくり活動の支援		区	地

【推進施策 2】 安心して子育てができる環境づくり

取組例	赤ちゃんお祝い訪問プロジェクト等を通じた子育て環境の向上		区	地
取組例	プレママ訪問・赤ちゃん訪問指導の実施	市	区	地
取組例	乳幼児健診や親子すこやか教室の実施	市	区	地
取組例	はぐくみだより等を活用した子育て情報の発信	市	区	地
取組例	「上京えんじえる“ぎゅうっと”ひろば」等を通じた子育て世帯同士の交流や安心できる居場所づくりの推進	市	区	地
取組例	地域における子どもの見守り活動の推進		区	地
取組例	子どもの心と体を守るための「食育セミナー」等の充実	市	区	地
取組例	ひきこもりや不登校児童を抱える家庭の相談を行う活動の支援	市	区	地
取組例	ひとり親家庭の支援	市	区	地

【推進施策 3】 子どもの見守り活動の推進

取組例	虐待や犯罪から子どもを守る取組の推進	市	区	地
取組例	地域における子どもの見守り活動の推進	市	区	地

方針 3**高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり**

本計画が終了する頃には、いわゆる団塊世代が75歳以上になるなど、長寿化が一層進行することから、高齢者の孤立防止、健康寿命の延伸につながる取組の推進、生きがいつくりといった取組が更に重要となってきます。

このため、高齢者がこれまで培ってきた知識や経験等を活かし、これからも生きがいを持って社会や地域活動に参加するとともに、住み慣れたまちで、慣れ親しんだ暮らしを送り続けることができるよう、生きがいつくりや健康づくりに取り組みます。

【推進施策 1】 高齢者の活動支援

取組例	高齢者が持つ知識や経験を活かした交流の促進	市	区	地
取組例	地域における「語り部活動」の推進（再掲）		区	地
取組例	ICT活用支援による高齢者の「学びの場」づくり	市	区	地

【推進施策 2】 健康寿命をのばすフレイル対策等の推進

取組例	上京区社会福祉協議会等と連携した高齢者の居場所づくり	市	区	地
取組例	地域と協働で取り組む健康づくり活動の推進	市	区	地
取組例	健康寿命をのばす「お・も・て・な・し」で取り組む「生活習慣病予防対策」と「フレイル対策」の推進	市	区	地
取組例	まちづくり活動支援事業等を活用した高齢者の自主的な活動の支援		区	地
取組例	一人暮らしや認知症の高齢者を見守る活動の推進	市	区	地

【推進施策 3】 長寿社会における支え手の支援

取組例	家族をはじめとする支え手の相談体制の充実	市	区	地
取組例	支え手同士のつながりづくりの推進	市	区	地

芽が出る 広がる！



リーディングプロジェクト

<府・市・区協調で上京ソリデール推進プロジェクト>

上京区では、高齢化の進行に伴い、男女ともに高齢単身者数が増加しています。「ひとり暮らし社会」が本格化する中で、周囲に頼れる家族等がない高齢者にとって、買い物をはじめとする日常生活が困難になることが心配されています。

長寿化社会の到来を見据え、家族だけでなく、地域や若者が交流を通じて高齢者を見守る目を多く育てていく必要があります。

本事業では、京都府で取り組まれているソリデール事業（大学生の下宿マッチング）をさらに促進するため、地域事情に精通している地域や区役所が、京都府及び京都市の各部局と連携し、事業の更なる推進を図ります。

😊 こんな取組が実施されています！

→ 京都府では、若者（一人暮らしの大学生等）へ低廉で質の高い住宅確保と自室の一室を提供する高齢者との交流を図る、同居マッチングシステムを構築し、「次世代下宿「京都ソリデール」」事業が実施されています。

2 学区単位の重点目標（続き）

学区名	重点目標
小川学区	<p>「絆で織りなす 住みよいまち小川」，「安心・安全のまち小川」を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を充実し，世代に合った情報発信を行います。 ・次世代が参加しやすい地域行事に取り組みます。
京極学区	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが気軽に集える居場所づくりを進めます。 ・必要な人に，必要な情報が行き渡るように，周知・広報活動を充実します。
仁和学区	<p>学区住民が「たのしい」と思えることに取り組み，安心して暮らせるまちづくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所づくりの取組を進めます。 ・広報活動の充実を図ります。 ・若い人が地域活動に参加できるように取組を進めます。
正親学区	<p>誰もが安心して暮らし続けることができる，正親学区づくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災の取組の充実，発展に取り組みます。 ・各種団体との連携を強化し，福祉活動の充実を図ります。
聚楽学区	<ul style="list-style-type: none"> ・防災の取組を通じた，多世代のつながりづくり ・誰でも気軽に参加できる場づくり
中立学区	<p>自助，共助，公助に加え「近助」の取組を広げ，「みんなが主役」の中立学区を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の充実や，講座・研修会の開催を進め，「和い輪いカフェ」のさらなる活性化を図ります。
出水学区	<p>住民福祉連合会を構成する各種団体が協力し，福祉の向上と，健康で明るく住みよいまちづくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代も参加しやすいよう，地域福祉活動の重要性の理解促進と話し合える場づくりをすすめます。 ・地域の福祉課題やニーズを把握できる取り組みを検討します。
待賢学区	<p>誰もが安心して暮らしていくため，地域に暮らす人と人とのつながりづくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化に備えた取組の検討 ・ふれあいカフェの活動の充実 ・防災活動の取組強化
滋野学区	<p>自治連合会（連合会），民生児童委員協議会（民生），社会福祉協議会（社協）の連携による，地域づくりに取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連合会，民生，社協が一体となり地域の福祉課題の把握を行います。 ・各種団体と連携した事業展開を検討します。 ・つながりが実感できる居場所づくり活動に取り組みます。
春日学区	<ul style="list-style-type: none"> ・学区事業の充実を図り，学区民がつながる機会を増やします。 ・子どもや若い世代が事業に参加できるような取組を進めます。

第6章 計画の実現に向けて

区基本計画の推進に当たっては、目指すべき将来像の実現に向け、区民の皆様、上京区を愛する多くの方々、行政が、それぞれの分野で「自分ごと、みんなごと」として取組に参加することが何よりも大切です。

上京のまちの魅力が未来継承されるまちづくりをともに進めてまいりましょう。

1 「自分ごと、みんなごと」で取り組むまちづくり

区基本計画に記載した課題等の解決に向け、より多くの主体の英知を結集した取組を進めるため、区民参加型の計画推進を図ります。

2 運営方針による取組の推進

区役所では、毎年作成する運営方針で、区基本計画を着実に推進するため、その年度における重点取組を位置付けます。

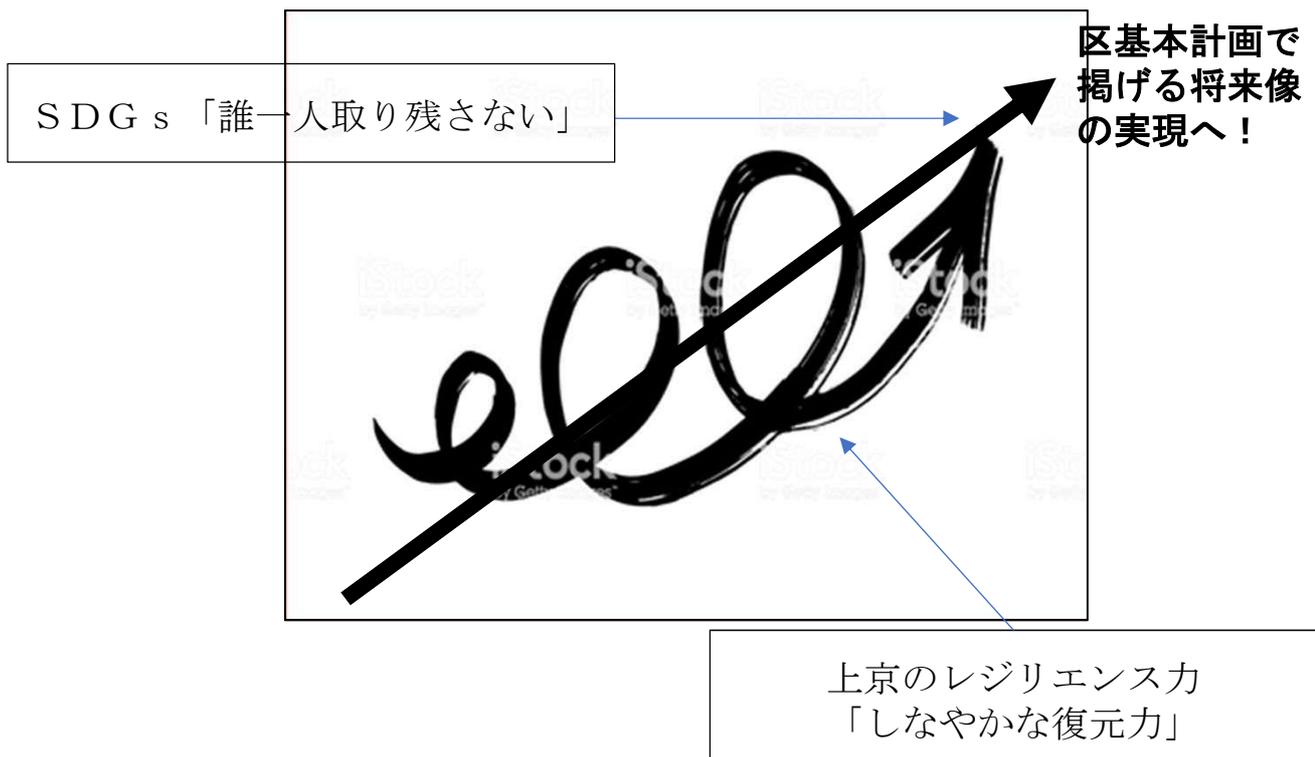
その運営方針を、区民の皆様等と共有し、区基本計画の推進を図ります。

3 学区ごとのまちづくりビジョンの策定

4 進捗管理の実施

区基本計画に位置付けた取組が適切に実施されるよう、前区基本計画と同様、学区代表や地域団体代表、行政関係機関等で構成される「上京区民会議」及び学区からの代表者で構成される「上京区民まちづくり円卓会議」等において、適切な実施に向けた提案及び評価等をいただくこととします。

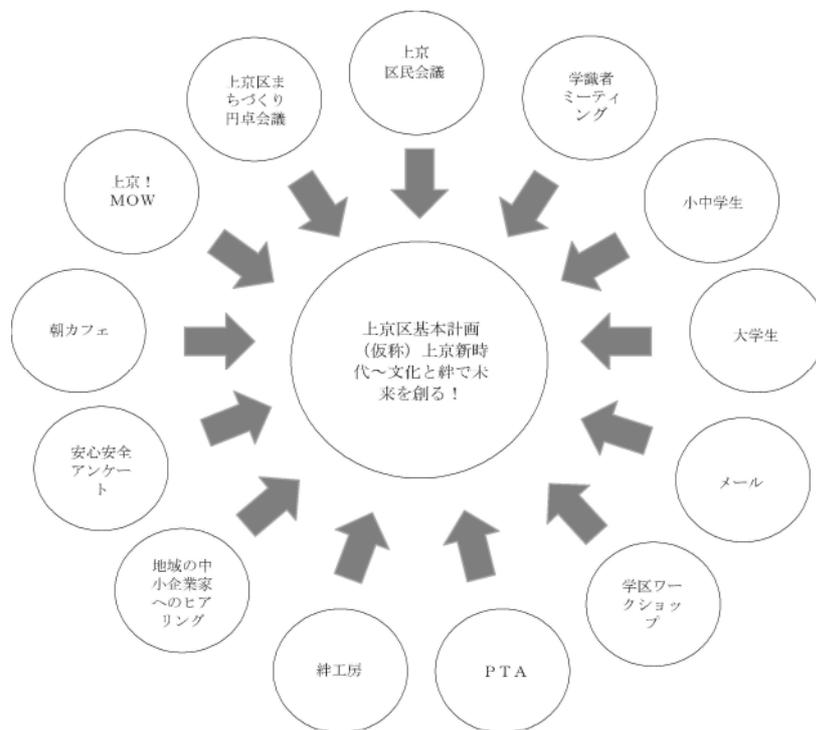
みんなで関わり合いながら、
ともに成長していく参加型まちづくりの推進！！



【参考】上京区基本計画の策定経過

次期区基本計画の策定に当たっては、前記の策定方針を踏まえ、上京区民会議を中心に、上京区まちづくり円卓会議における部会ごとの議論、区内17学区、小中学生、地域の中小企業家とのワークショップ、上京区まちづくり円卓会議拡大会議（上京！MOW）、共同住宅対象のアンケート調査等を実施し、様々な立場の方から御意見を汲み上げながら策定しました。

また、市民しんぶん上京区版で随時、区民意見を募る「通年型のパブリック・コメント」を実施し、パブリック・コメント等でいただいた御意見を最大限反映するように努めました。



【参考】これまでの検討会議等

日 時	策定経過
令和元年 7月 9日	学識者ミーティング／取組テーマの検討
令和元年 8月 9日	第1回上京区まちづくり円卓会議／取組テーマの検討 （「はぐくみ・継承」「安心安全」「ライフスタイル」部会）
令和元年 9月 4日	第1回上京区まちづくり円卓会議／取組テーマの検討 （「まちの活力」部会）
令和元年10月～ 令和2年2月	区内17学区ごとに地域の課題解決に向けたワークショップを開催
令和元年11月	「上京区民（共同住宅対象）アンケート調査」を実施
令和元年11月11日	第2回上京区まちづくり円卓会議／取組テーマ・取組例の検討
令和2年 1月15日	「市民しんぶん上京区版」にて、まちづくりにおける課題等の紹介及び御意見・御提案を募集
令和2年 1月22日	ふれあいトーク「上京中学校」／中学生との意見交換

【参考】これまでの検討会議等（続き）

日 時	策定経過
令和2年 2月 6日	京都中小企業家同友会上京支部との意見交換
令和2年 2月17日	安心安全絆工房 「世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」上京区推進協議会 構成組織によるワークショップ
令和2年 2月19日	仁和小学校 きらめき学習／小学生との意見交換
令和2年 3月15日	「市民しんぶん上京区版」にて，次期区基本計画の策定に係る「みんなが主役！各学区でのワークショップ」の結果をもとに意見募集
令和2年 3月16日	第3回上京区まちづくり円卓会議（次期区基本計画（素案）についての書面審査）
令和2年 4月15日	「市民しんぶん上京区版」にて，「上京区民（共同住宅対象）アンケート」結果及び「安心安全絆工房」の結果をもとに意見募集
令和2年 7月28日	第1回上京区まちづくり円卓会議／素案の検討（「安心安全」部会）
令和2年 7月30日	第1回上京区まちづくり円卓会議／素案の検討（「まちの活力」部会）
令和2年 8月 4日	第1回上京区まちづくり円卓会議／素案の検討（「ライフスタイル」部会）
令和2年 8月 5日	第1回上京区まちづくり円卓会議／素案の検討（「はぐくみ・継承」部会）
令和2年 9月15日	「市民しんぶん上京区版」にて，第1回上京区まちづくり円卓会議での議論を報告するとともに，区民の皆様の「思い，夢，希望」に関する“つぶやき”を募集
令和2年10月27日	上京区まちづくり円卓会議／次代のまちづくりを担う若手との意見交換（「上京！MOW」）
令和2年11月15日	「市民しんぶん上京区版」にて，次期基本計画に係る大学生との意見交換の結果をもとに意見募集
令和2年11月18日	第2回上京区まちづくり円卓会議／素案の確認（「ライフスタイル」部会）
令和2年11月18日	第2回上京区まちづくり円卓会議／素案の確認（「まちの活力」部会）
令和2年11月18日	第2回上京区まちづくり円卓会議／素案の確認（「はぐくみ・継承」部会）
令和2年11月20日	第2回上京区まちづくり円卓会議／素案の確認（「安心安全」部会）
令和2年11月27日	上京区民会議／素案の確認

上京区民会議 委員名簿

会長	上林 研二	上京区社会福祉協議会 会長 中立住民福祉協議会 会長
副会長	山本 安一	上京区市政協力委員連絡協議会 会長 出水住民福祉連合協議会 会長
副会長	井筒 隆夫	上京民生児童委員会 会長
副会長	冷泉 貴実子	上京区文化振興会 会長
副会長	新川 達郎	上京区まちづくり円卓会議 議長
委員	山元 國隆	成逸住民福祉協議会 会長
委員	藤木 常男	室町自治連合会 会長
委員	赤井 英俊	乾隆自治連合会 会長
委員	藤林 宏	上京区自主防災会協議会 会長 西陣住民福祉協議会 会長
委員	鎌田 雅睦	翔鸞住民福祉協議会 会長
委員	喜多 泰弘	嘉楽社会福祉協議会 会長
委員	細尾 真生	桃菌自治連合会 会長
委員	坂下 壽秋	小川住民福祉協議会 会長
委員	亘 重好	京極住民福祉連合会 会長
委員	上岡 修	仁和福祉団体連合会 会長
委員	尾崎 富美雄	正親住民福祉協議会 会長
委員	八木 継男	聚楽社会福祉協議会 会長
委員	原 吉則	待賢住民福祉連合協議会 会長
委員	船野 道弘	滋野団体連合会 会長
委員	水嶋 順二	春日住民福祉協議会 会長
委員	寺林 勇	上京区体育振興会連合会 会長
委員	加藤 アイ	上京区地域女性連合会 会長
委員	山田 陽一	上京防犯推進委員協議会 会長
委員	采野 利久	上京消防団 団長
委員	沢野 克彦	上京区交通安全会連合会 会長（代行）
委員	大橋 憲宏	上京保護司会 会長
委員	藤原 信生	上京少年補導委員会 会長
委員	大石 宜男	上京区スポーツ推進指導員会 幹事長

上京区民会議 委員名簿（続き）

委員	四辻 亮司	上京区老人クラブ連合会 会長
委員	織田 英夫	上京保健協議会連合会 会長
委員	岡村 浩史	上京区身体障害者団体連合会 会長
委員	菅原 邦美	上京区はぐくみネットワーク実行委員会
委員	倉辻 彦一	上京子ども会育成連絡協議会 会長
委員	福井 治子	京都手をつなぐ育成会 上京支部長
委員	石田 紀美子	上京老人福祉員学区代表者連絡会 会長
委員	山口 智史	上京区小学校PTA連絡協議会（新町小学校）
委員	佐藤 浩也	上京区中学校PTA連絡協議会（二条中学校）
委員	二宮 靖男	市立小学校校長会 上京支部長（翔鸞小学校）
委員	澤田 清人	市立中学校校長会 北・上支部 上京地域代表（二条中学校）
委員	吉岡 竜良	上京区保育園長会（わかば園）
委員	北澤 美砂子	上京区公立保育所 所長会（鶴山保育所）
委員	豊田 寿美夫	公立幼稚園 園長会（乾隆幼稚園）
委員	中山 あい	上京区児童館 代表（西陣児童館）
委員	舞鶴 一雄	西陣織工業組合 理事長
委員	瀬戸 直人	京都中小企業家同友会 上京支部長
委員	片桐 義明	京都商店連盟 上京支部長
委員	高橋 あゆみ	同志社大学 ボランティア支援室
顧問	林 建志	上京区長
顧問	藤本 竜二	上京警察署長
顧問	谷舗 昌三	上京消防署長

上京区まちづくり円卓会議 委員名簿

議長	新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
副議長	井筒 隆夫	区社会福祉協議会副会長
副議長	山本 安一	区市政協力委員連絡協議会会長
学識者	大窪 健之	立命館大学 理工学部 教授
学識者	小谷 真理	同志社大学 政策学部 准教授
学識者	中井 歩	京都産業大学 法学部 教授
学識者	吉田 満梨	立命館大学 経営学部 准教授
委員	川田 雄司	成逸学区民代表
委員	高田 康義	室町学区民代表
委員	赤井 英俊	乾隆学区民代表
委員	和多田 博之	西陣学区民代表
委員	富家 裕久	翔鸞学区民代表
委員	中野 泰伸	嘉楽学区民代表
委員	舞鶴 祥三	桃菌学区民代表
委員	坂下 壽秋	小川学区民代表
委員	小野 佳代子	京極学区民代表
委員	岸本 深幸	仁和学区民代表
委員	東 秀明	正親学区民代表
委員	三上 洋正	聚楽学区民代表
委員	井澤 信之	中立学区民代表
委員	倉辻 彦一	出水学区民代表
委員	井上 信行	待賢学区民代表
委員	西田 茂	滋野学区民代表
委員	松本 修一	春日学区民代表
委員	寺尾 誠一	公募委員
委員	狭間 明日実	公募委員
委員	益山 周三	団体（アニュアルギャラリー）
委員	坂本 孝志	団体（京都観光文化を考える会・都草）
委員	明石 進	団体（上京区身体障害者団体連合会）
委員	福井 治子	団体（京都手をつなぐ育成会）
委員	松田 梓	団体（西陣織工業組合青年部）
委員	大塚 牧子	団体（京都是ぐくみネットワーク）
委員	鈴江 良介	団体（北青少年活動センター）
委員	高橋 あゆみ	団体（同志社大学学生支援センター ボランティア支援室）

令和2年 月発行 京都市印刷物〇〇号

発行 京都市上京区役所地域力推進室

〒602-8511 京都市上京区今出川通室町西入堀出シ町289番地

電話075-441-5029 FAX075-432-0566



上京区のシンボルマーク